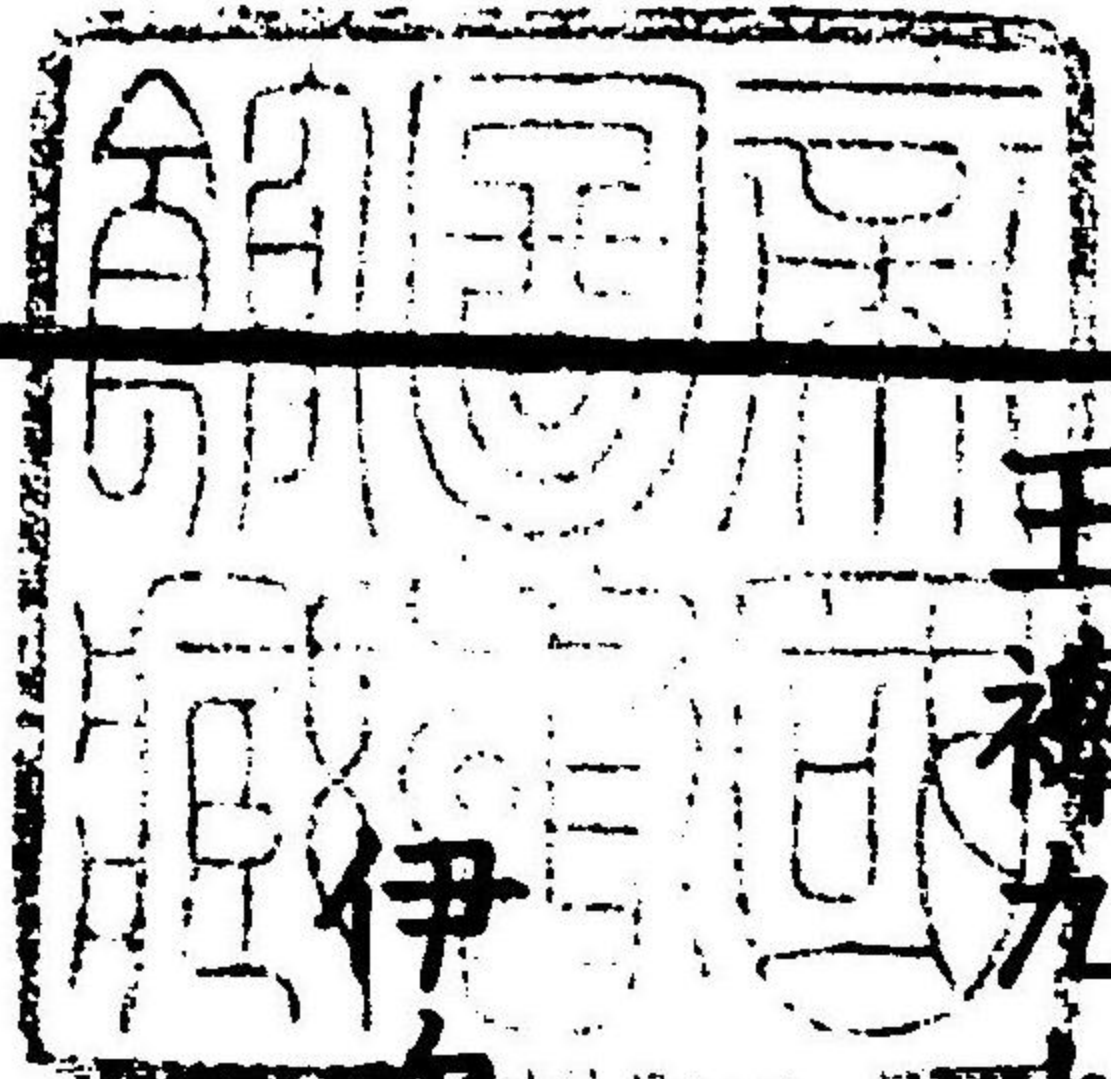


837
10
86

池
林
海
音
伎
九

曹山文庫

玉襪九史卷



伊吹 迺屋先生講本

人門

武藏國 田川利器

伊勢國 小川地喜治

石見國 竹内正業

根岸信輔氏寄贈



次小學問の神比御前向右の如く拜みて。

辭別コトワケ氏吾古學爾幸閉賜閉登齋比奉雷カミ八意思兼神忌部
神菅原神又添カミ氏齋比奉雷荷田大人岡部大人本居大人
久延クニ毘古命乃御前乎慎美敬比學問乃業爾悟演久彌獎
爾獎賜比足波不行ニ杼毛天下乃事共令知賜幣登畏美畏
美母拜美奉雷ミ

八意思兼大神のふぢは。既スレ小第十七、詞の下小説トキとる如く。
思慮オモヒカガリのもぢ於大神ミコ坐ませむ。何ナニれ業ノミよても。思オモヒ慮カガリめを
用ふる事コト小ミを。此コノ神カミれ御ミ霊タマをこノミ願ネガ白ハクをシけスと。云イハふも
更マシれハ依ヨ中ナカよモ。古コノ道ミチの學問ガクは。殊トシよハ深コホく思慮オモヒカガリを用ヨ比ヒばテは。
其ソノ神理カミノコトを曉サトり得エられル終事ノハジメある故ユ。ふハを第一ノハジメ小齋イッき。次ツギ了ス
忌部イミベノ神カミとハ。忌部イミベノ廣成ヒロナガ宿禰スネを云イハふ。古コノ學ガクよ志シ何ナニらむ人ヒトを。必カナラ
ふの御ミ霊タマをこノミ祈ノリ白ハクべきコト也。開題記アキタマヒ小論コノロ系ケイ係ケイよ就ツキて見
るル。菅原スガハラ神カミとハ。天アメ滿ミツ大オホ自在ジザイ天神テノカミを申マウせテ。此コノを學問ガクれ
神カミと齋イッ祀ヒツ奉ホウる事コト此コノ由ユは。先サキ去クろ余タラが考說コウセツの大畧オホシヨ。高橋タカハシ正
雄オサムが。天アメ滿ミツ宮ミヤ御ミ傳ツタ記キ畧シヨ小著コテせテ係ケイよて知チるル。宿禰スネを忌

部ベノ神カミとマをシ。天アメ滿ミツ大オホ自在ジザイ天神テノカミを菅原スガハラ神カミと申マウせるハ。神代
紀カミヤマト。天アメ兒コ屋ヤ命ノミを中臣ナカノミ神カミとマをシ。天アメ太オホ玉タマ命ノミを忌部イミベノ神カミとア
るル。此コノ古コノ道ミチの學問ガクを。挂カケはクも畏オソれ。東照宮トウショウミヤその初
免ヒラを開ヒラき給タマひ。公子ミコ尾張オウサガれ敬公キョウキウ。まと公孫キムロ水戸ミヅトれ義公ギキウ。それ
御心ミココロを繼ツギて。世ヨ傳ツタへ給タマひしと。委タカレくは入學問イラガク答コタへ載ノせし。
其ソノ大畧オホシヨハ。此コノ書シヤれ發端ハツタンよ云イハふと。如スし。此コノ學問ガクれ道ミチの山口ヤマグチ。志
らヒラ開ヒラけ始ハジまれると。早ハヤくも世ヨ傳ツタへ給タマひしと。委タカレくは入學問イラガク答コタへ載ノせし。
人ヒトく阿ア保ホと出デるル。其ソノいち早ハヤきを。江戶エドよ梨本リホン茂シゲ睡スミあり。こ
を稱ナふるハ。此コノ人ヒト近世キンセイの魁ケイあり。と云イハふと。凡ソノそ哥道カミチよ古學コガク
其ソノ元祿ゲンロク十一年ジュニイチネン五月ゴゲツ小ミて。梨本リホン集シユを見て知チるル。此コノを著シヤクせる時トキを。
速ハヤく下河辺ゲノヘノ長流ナガリウあり。契ケツ冲ウチ法師ホウシあり。共トモに哥道カミチの古學コガクを唱ナゲ
へし人ヒトくみて。あらうも此コノ二人ニヒトを水戸ミヅト。義公ギキウの恩顧オンコンをも蒙モウれ
る徒タラあり。委タカレくは水戸ミヅトの安藤ヤナド為章ミチアキが年山トシヤマ紀聞キブン及びキ高タカ蹊セキが

崎人傳ふどを。然も有れど。其徒ト不クは。歌學ニ古意を發
明せる耳ふて。敬公ニ神祇寶典。類聚日本紀を御撰びまし。
義公ニ神道集成。大日本史を撰び給ふ。古道の大義ニ旨
を明かさむ事をば。心及むて在ル。身を下ふがら。然ル大
義小ハ濱ニく心を入ル。是ハ。荷田東麻呂大人ヲ始メ。不ハ有ル。依
抑シ此ノ大人ノ姓ヲ。荷田宿禰ト稱ス。氏ハ。羽倉ト稱ス。東西兩
て。大人ヲ東羽ト。通名ヲ齋宮トいふ。初メ。信盛ト云ひ。後ハ。東
倉ノ方アリ。麻呂ト改メ。東ノ丸ト。滿ル。春滿トも書れ。東麻呂ハ。春滿
方ハ。麻呂ヲ唱ふ。○遠江國濱松ニ。諏訪ニ。大祝ニ。杉浦ニ。比隈ニ。滿ル。云く。
己ノ家ニ。正徳四年八月朔日ニ。東丸漫書ト。奥書アリ。古今集
の自筆本アリ。此頃ニ。既ニ。東麻呂ヲ改メ。られル。ゆヘ。思ふ。
春滿トも書き。とる。享保元年より。後ノ事アリ。ほく。所ニ。思ふ。

と云。式内山城國紀伊郡稻荷神社京伏見の稻荷と稱。正預。
從四位下行主膳正。荷田宿禰信詮此ノ嫡子。兄弟四
人あり。長ハ。女子也。此ハ。女子ハ。同社ニ。正官ニ。西羽倉伯耆守上
大祝ト。杉浦信濃守國頭室とあり。次ハ。大人也。依ガ。母ハ。自ハ。
源盛定ト云ふ。の女也。其ノ次ハ。信名也。その次ハ。宗武ト
云ふ。何カ。依ガ。事ハ。大人ハ。其家ヲ。繼グ。弟ハ。信名也。家
督相續して。攝津守ヲ稱し。正預ト形也。末弟宗武。後ハ
了て。並河友史進ト云り。とそ。○右等ノ事共。豫テをろを
の家系アリ。事ノ有グ。上ニ。遠江濱松ニ。杉浦家ニ。羽倉氏
聞て。彼ニ。参考して。記し。傳へ。とる。趣ヲ。今ハ。大祝ニ。比隈ニ。滿ル。より
まじくさ。有ル。儲ニ。其ノ學業ノ詳カ。依ガ。趣ハ。春葉集ニ。同族荷

田信郷オシカキが後敘せし。幼よて學を好み、篤く皇道復古オシカキの學志シヨキして、國史律令、古文、古歌、及び諸家の記傳キデンに至りて、該博ヒコく通ぜざし。然れども師尚ウラナはる所なく、而して其自得發明トクヘキする所極トクヘキ免て多し。此大人幼き凡オノならず、分ウラナ序シヨキし、稻荷山の神司、荷田の家カネノに於て、春葉集の橋本經亮ハシノ在アせしハ、知らぬ昔人オノを余オノがうひ學マカび、此頃オノおあじ社の秦直親ハシノ宿祢オノ此古オノこと字學マカをむすハ、我師の教マカす不就オノても、たたら万葉集オノを見る、後しと聞えられしをよみかきて、難波津、浅香山オノを習ふより、稻の葉オノ名オノおふ宮の古きあら、後し心ざし、よりしうど、大人乃詠オノ哥オノを、童子オノよて九歳の時、山オノ了オノ身オノ狩オノて、詠れも、て、稻荷山オノハ、小鳥の音を絶オノて、たとまきるもの、を谷川の水オノといふ外オノある、都オノよりけ給オノを、らば、了オノし、云オノく、を有オノも、知られ、とめ、然れ、ハ、師尚ウラナを、所オノあし、を云オノふハ、信然オノも有オノべし、然るハ、諸家人物誌オノといふ物オノ、契冲オノの病禱オノに至り、享保中小江戸オノ遊オノびて、國學オノを受オノとめ、と記せるハ、非オノあり。

聲名オノあり。特オノ内命ありて、侍臣某オノ找オノして、從遊オノせし、免て、古書を校オノせし、免給オノふ。居オノ去オノや、數年オノおた、疾オノを得て、京オノに歸オノら、依オノ己オノして、伏見奉行オノ、北條遠江守オノをして、内命を傳へて、銀若干オノを賜オノふ。江戸オノに、萩原宗固オノ、山岡妙阿オノと云ふ、哥道オノの古奈佐勝オノ、梶屋代弘賢オノと云ふ、人々の門流オノより、堀保己オノ一人、大人の久オノしく、江戸オノに居て、古學を唱へられし、因オノる事オノあるを、今、人々、然る事オノとし、も得、大人嘗オノて、國學校を創立オノする志オノありて、上書オノして、執事小啓オノに、る。未報オノあらば、して、歿オノせ。其志は、遂オノざれども、其言は、傳オノはし。崎人傳オノ、國學の學校官オノの許オノを、うけ、既オノに地を東山オノに、ト、ほるに、及びし、病オノに罹りて、年オノを、經オノ成オノら、ば、して、終れり。惜オノむべし、今の東本願寺オノの墓地オノに、辺オノと、を、云オノふ、本文オノ云オノ、る、は、異オノふれども、摠オノして、か、多事オノは、も、ま、於オノ執事オノに、就オノて、内啓オノし、自オノら、此所オノを、と

思ふ場所を見て、請白を事小し有れども、内々其指揮をも受られむが、未その表立たる命を承らぬ間、そを疑らむむ故、かゝる異大人筆を易ふ依日小侍兒、命じて平説ハ有る小こそ。生小著はせる所の草稿數品を採りて、竊小こまを焚きて、諸子弟をして識ふ免び、蓋後世小傳ふる事、或欲せざ依ふ也。是字以る其著述存する者、いくばくも無し。大人の末期、焚火はれたる意を考ふ依、始えて古道の大義を説明さむと、勤まきて在しうと、數百千歳の間を、乱れし乱れもて來し古道の旨字、説明らむる事を、難しとも難きわざ小し有れむ、其著述之、片成小て、未ど其意小適ふばうり、了は、精撰成さりし故、然る未定の自心、了も適むざる書等をし、世傳へむ、後学を悞らむ事を、思はれし故、依へし、其は、遇、焚、殘、已、傳、ハ、れ、依、万、葉、集、の、解、ま、伊、勢、物、語、の、童子問、或を神代紀の解ふどの、今より見る小、心、ゆ、愈、事、れ、多、う、成、以、て、知、ら、れ、と、是、ま、と、此、大、人、の、後、世、小、木、鐸、と、る、大、器、を、見、る、小、足、る、べき所あり、大人小

子れし。姪在滿をもて嗣と爲り。在滿江戸小在りて。田安金

吾君小仕ふ。學義遇せ、疾をもて辭して。加茂、眞淵を薦め

て代らしむ。在滿の通名を、東止進といへり。大嘗會具紀、同

を好み、哥を好めり。其、哥集を杉、下枝と云ふ。ちて在滿が

學義の、君意よ遇さ、事は、国哥八論、及び其餘言といふ

物、まゝ再論ふと云ふ。物を見て知べし。崎人傳も、其君か

不、所ありて、其、説、よ、從、は、し、色、む、と、依、在、滿、き、う、貴、賤、品、

異ありと云ふ。各、志、所、あり、己、が、所、見、を、去、て、人、了、

從ふと、諂諛ふと、終、小、祿、字、辭、して、去、る、家、居、教、授、して、終、

る、其、子、を、御、風、堂、い、ふ、字、ハ、東、藏、家、学、を、嗣、て、江、戸、小、あり、と、

云へり。儲、その、国、哥、八、論、の、序、非、と、云、ふ、物、あり、大、菅、公、主、を、

云、る、人、の、記、せ、る、右、八、論、序、非、を、も、互、小、得、る、所、と、

得、終、所、と、有、る、を、鈴、屋、大、人、に、標、記、傍、書、せ、ら、れ、し、物、あり、哥、

道、の、古、学、小、益、ある、物、大人、元、文、元、丙、辰、年、七、月、二、日、小、歿、せ、

あり、う、れ、ら、げ、見、べ、し、大人、元、文、元、丙、辰、年、七、月、二、日、小、歿、せ、

ら、せ、ぬ、也、と、言、了、也、上、り、記、せ、る、荷、田、信、郷、の、本、文、を、も、て、漢、

引直して、假カちて年は六十八歳ありしをぞ。此事も、彼杉浦家も記し傳へ
あるよし、比隈満が云ふ依て記し於、然れを寛文九己酉年
の生れあるべし、按ふに上書の文中に、犬馬七年未滿六十、
又も六十は七十に誤り、何きならむ、猶よく尋ねし。
は、同族信美の序に、大人の常ふ言れし語とて、學マびの道
を。天下に大路オホミチあまは、己オノひを立タテらむが如く、誇ホウるは、うら
交マ學マぶ人も師の教ヲシあゆとて、強ツヨクに泥ドロを塗ヌルうらば、皇御國の
ふみ見む人も、まがから文フミを讀ヨみて事をわきまふ。時雨ふ
依奈良の林小わけ入イり、神世の古道フルミチあや、茂シ尋ミたぐ。は、をら
雄心ヲゴロをたふし立タテて、高タカま代シ字シ慕シは、む。おどろ昔コトの手振テ小コ至
らざるは、き。詞ウタも然シカり。と云イれしと言イひ。春葉集に、書といふ
題にて、ふとわけよ

倭ヤマトのあらぬ漢島の跡を見るのみ人の道ミチうた。は、古コは
と詠ユれし哥カあり、能くも此コノを語カし、うれへ。真マコト心ココロもて、思オモひをたみ、述ツれを、自オノら直ナかめし、小コ題チを
てて詠ユると。詞ウタをかざり、心ココロをち、牙キバ小コ巧タカみ、よ作ツクれを、苦クシ
げ、亦オト亦オトも見ミゆるぞうし、四季雜シキザシの題チを、見ミしをて、思オモひ出デ
も詠ユむ、異コト國クニを、依ヨハ、筆ヒト跡アト小コても、大凡オホネ小コ心得ココロエらるは、
し、男女オトメの、おらひ、何ナニくまの物モノを、せ、心ココロも非ヒぬあふし
言コト、残ノコいひ出デせるは、誠マコトを、述ツる歌ウタに、本意ホノイを、死シびせて、戀コヒの題チ
を、ふ、詠ユま、ば、毫コトくは、牙キバし、卷マク著シせし書シら、れ有アりしも、世ヨ小
遺ノコして、何ナニ小コうせむ、學マぶ人は、誰タレも見ミ明アらむ、登ノボし、とて、迦カ具グ
土ツチ神カミを、奉ホウり、とみし言コト草クサも、一ヒト葉ヒラど、小コ家カを、留トドめ、し、うば、我ワ

が稻荷山此杉の木間よ。遠ま武藏野の草をわける。耳小止れる。我求えて。信郷宿禰が書集めて。二卷小作せ。依を。春此葉の茂。己く知く。此枝の榮也。くて。ふ古語もて。春葉集とハ稱ふる。みれむ。とも言牙。此。若。国風吟咏散。在。他家者。搜索。史。數年。才。得。數百首。猶恐有遺珠。止憾。且。錄。史。傳。於。家矣。と云。牙。り。恋の哥を詠れ。ざ。り。事。ま。と。此。大人。此。哥の事。を。崎。人。傳。ふ。此。翁。契。冲。と。時。を。同。く。志。て。是。ハ。後。輩。う。彼。説。を。知る。や。知ら。ず。や。契。冲。を。佛。者。あ。依。う。へ。り。其。人。綿。密。う。過。て。泥。滞。せる。事。も。ま。く。見。ゆる。我。此。翁。を。一。層。登。り。て。説。を。い。於。お。よ。そ。元。祿。年。間。を。諸。道。復。古。の。運。子。當。り。と。る。時。小。し。て。国。学。を。唱。ふる。ハ。契。冲。と。此。翁。あり。詠。哥。ハ。主。と。依。所。非。ざ。れ。ども。又。凡。ふ。ら。に。今。覺。え。し。は。可。見。れ。む。き。の。ふ。此。淵。を。あ。さ。う。浮。汐。の。み。ち。い。ぞ。せ。れ。姿。あり。れ。ど。い。を。感。と。し。や。又。中。世。よ。て。淫。靡。此。風。を。恥。せる。事。を。憤。り。て。生。涯。恋。哥。を。詠。せ。ず。恋。哥。を。詠。れ。ざる。方。正。も。儲。それ。官。小。上。られし。書。は。り。此。とも。賞。以。べ。し。と。云。へ。也。

春葉集の附録小出せ。依が。其初。免。る。謹請。蒙。鴻。慈。創。造。國。學。校。啓。荷。田。東。麻。呂。誠。惶。誠。恐。頓。首。く。謹。聞。と。か。き。出。して。神。君。勃。興。は。し。く。て。天。下。を。平。章。志。給。ひ。し。よ。也。文。武。の。道。備。は。了。今。を。も。寬。仁。に。君。小。お。は。し。て。上。天。皇。を。尊。び。下。諸。侯。を。懷。け。彌。益。く。小。廢。と。依。を。興。し。絶。と。る。我。繼。給。ふ。由。を。稱。へ。白。し。偶。小。校。書。れ。命。を。蒙。れる。事。を。忝。み。り。於。神。皇。の。道。此。陵。夷。せ。依。り。其。學。の。未。講。せ。ざ。依。事。我。歎。ず。詠。哥。此。道。も。は。く。古。義。を。失。る。由。を。啓。して。其。下。文。小。今。史。談。神。道。者。是。皆。陰。陽。五。行。家。史。説。世。史。講。詠。哥。者。大。率。圓。頓。四。教。儀。史。解。非。唐。宋。諸。儒。史。糟。粕。則。胎。金。兩。部。史。餘。瀝。非。鑿。空。鑽。穴。史。妄。説。則。無。證。不。稽。

史私言曰。祕曰。訣古賢史。眞傳何有。或蘊或奧。今人之偽造。是多。臣自少。無寢無食。以排擊異端爲念。以學以思。不興復古道。無止方。今設非振臂張膽。辨白是非。則後必至塗耳塞心混。同邪正。云々と言ひ。以上の文を世に謂ゆる神道及び哥道を講ぐる者此。或を儒小より佛小よりて其説く事ども悉く古義小叶はざる事を歎き許すられし文あり。然て學校を建る地を京師に伏見東山の邊小て賜をて。少よと蓄へて依。祕籍奥牒をさく小藏免て。僻邑寒郷の士も容易小讀志免む事を白し。ほく古くも皇國學校の無てし事をも慨み啓して。夫本邦設施學校權輿于近江朝廷。主張文道濫觴於嵯峨。天皇菅江家有分彰院。源藤橘和繼起。太宰府有學業院。足利

金澤延及。然所藏三史九經。陳俎豆於雍宮。其所講四道六藝。薦蘋蘩於孔廟。悲哉先儒史無識無一。及皇國史學痛矣。後學史鹵莽。誰能歎古道史潰。是故異教如彼盛矣。街談巷議無所不至。吾道如此衰矣。邪說暴行乘虛入。憐臣愚衷。創業於國學。鑑世倒行。垂統於萬世。首創難成。功非經國大業。邪繼續易用。力眞不朽。盛事哉。臣史至愚何史知。不敢自讓者。語釋也。國字史多。紕繆。後世猶有知史者。典籍猶存。古語史少。解釋振古不聞。通史者。文獻不足。國學史不講。實六百年矣。言語史有釋。僅三四人耳。其爲巨擘新奇。是競極。無超乘骨髓。何望古語不通。則古義不明焉。古義不明。則古學不復焉。先王之風拂迹。前賢

少意近荒。一由不講語學。是所以臣終身精力用盡古語也。云
云。記されし。猶委く其文を知らむと思はむ人。本書
物せむ。此は世の學者れど。机小よ。子弟小對して。誇言
慢語。類小を非。畏くも官子白せ。依文形る小。先儒の
國學校を興さ。漢學校を興せ。依を無識と稱し。其儒學を
異教と稱して。古道學校興。經國の大業。稱せるれど。
實小舌。卷。語等あるが。岡部大人。此學ハ。此大義の
筋骨を受得られてぞ有。依。今の世。古學と稱して。哥道
其。先生。ちの傳を物。契沖。縣居。鈴屋。を。三哲。此。歌
稱して。此。大人。此。事。都。稱。依。者。其。徒。此。歌
作者。道。乃。本。義。を。知。さ。る。故。小。哥。學。の。方。より。然。を。思。ふ
よ。ぞ。有。る。契。沖。を。佛。者。小。し。有。れ。む。然。て。も。有。る。縣。居。鈴

屋の二翁をし。哥もて稱せむ。其本意。違ふこと。余。我
が。黨。此。小。子。よく。此。旨。を。思。ひ。て。荷。田。大人。此。御。蔭。を。も。常。忘
る。ま。じ。き。事。あり。然。る。ハ。此。大人。その。書。き。と。書。れ。し。物。ども。
思。ふ。旨。あり。て。世。小。傳。牙。ら。れ。ざる。故。今。現。る。その。御。蔭。を
蒙。る。と。し。も。思。を。稱。と。其。鈴。屋。の。説。を。縣。居。より。い。で。縣。居。の
説。を。此。大人。數。年。從。以。學。む。れ。る。小。出。て。次。く。小。委。く。調
牙。依。物。小。し。有。れ。バ。ま。其。本。を。思。ハ。で。有。ま。じ。死。謂。よ。こ
そ。其。説。の。今。小。傳。は。る。ハ。鮮。れ。ど。今。奉。る。上。書。の。文。を。見。て
も。其。垂。統。せ。ら。ま。し。恩。義。を。あ。る。く。其。大。義。は。濃。く。思。ひ
入。ら。れ。し。大。倭。心。ぞ。や。が。て。皇。國。學。の。良。師。小。ハ。有。る。其
を。今。し。此。よ。か。く。云。ふ。由。ハ。己。を。や。く。藏。り。し。春。葉。集。を。か
し。失。牙。此。バ。相。知。れ。る。人。く。借。ら。む。と。欲。る。持。る。人。不
く。此。集。の。有。と。し。も。知。さ。依。も。多。う。れ。む。本。屋。ども。を。尋。祿。て。
辛。く。志。て。古。本。の。虫。食。と。る。を。得。る。小。慷。慨。の。心。を。こ。り。す。
後。學。を。驚。り。さ。む。と。か。く。ハ。記。し。然。る。ハ。諺。も。其。人。を。愛
する。ときは。其。茂。る。所。の。樹。を。敬。ま。と。云。ふ。を。況。て。學。問。の。道
小。於。て。その。父。師。を。比。み。知。り。て。其。ち。て。岡。部。大人。此。傳。ハ。師
祖。師。を。忘。る。は。き。道。理。あ。ら。む。や。も。ち。て。岡。部。大人。此。傳。ハ。師
比。玉。が。抄。了。小。記。さ。し。事。と。母。及。び。加。藤。千。蔭。村。田。春。海。亦

少小。早く聞持キキは家事とも成取合せて記さむ。少賀茂カキ、縣主
氏ウヂ。遠祖トホツカヤ。神魂神カミムスヒの孫ミコ。鴨武津見命カモタケツミ。少賀茂カキ、八咫鳥ヤタガハスと化て。
神武天皇を導ミタビ祀奉イハヒて給ひし神カミ。家承イハヒこと。山城風土記。姓氏
錄シヨ。少見えて。古史コシ。少委クニく記せるが如し。神武天皇の御
録シヨ。此コノ神カミ。末ハツ。山城國愛宕郡岡田。賀茂カキ、大神を齋イハヒき奉る。片岡、
祝師重と云ひし人ヒト。少子五人。女子筑前局。太郎師幸。二
郎道久。三郎師久。五郎師繼あり。師重を賀茂、神主成眞の子。
大田、祝イハヒと云し。天福二年。筑前局は内命婦ヒメトメ。少仕奉れるが。
小片岡、祝と爲れ。と云。遠江國敷智郡濱松、庄岡部郷。少て。五百石の地を賜は。其
郷。少賀茂の新宮を祠イハヒいて。第二郎太夫道久。字代官。少置オキと

るが。春海云く。此コノ局の由ユ。後ノチ。神領とて。兄弟の者モノ。
大人オホタチ。此コノ万葉解序マンヤクゲ。真淵マヒ。遠祖トホツカヤ。成助ナリタケ。て。少人。神山カミヤマ。此コノ麓ノボリ。少あり。
正ただ。松マツ。の。命ノミ。婦メ。の。末ハツ。少し。も。有ア。り。傳ツタ。へ。其ソノ。裔イハレ。ハ。大宮オホミヤ。少あり。
奉ツカ。り。て。内命婦ウチノミメ。の。末ハツ。少し。も。有ア。り。傳ツタ。へ。其ソノ。裔イハレ。ハ。大宮オホミヤ。少あり。
書シヨ。の。は。し。を。も。且カ。今イマ。少し。傳ツタ。へ。來キ。り。傳ツタ。へ。其ソノ。裔イハレ。ハ。大宮オホミヤ。少あり。
む。しく。古コ。き。書シヨ。を。も。且カ。今イマ。少し。傳ツタ。へ。來キ。り。傳ツタ。へ。其ソノ。裔イハレ。ハ。大宮オホミヤ。少あり。
ふ。添ソ。き。道ミチ。を。入イ。て。少し。傳ツタ。へ。來キ。り。傳ツタ。へ。其ソノ。裔イハレ。ハ。大宮オホミヤ。少あり。
道久ミチヒサ。年トシ。老オシ。て。後ノチ。少弟セ。れ。る。五郎太夫師繼イハヒ。少神領を譲ユツ。らむ事
を請イハヒ。申マカ。せ。添ソ。よ。文永十一年六月七日。持明院殿の令旨を
賜タマ。ひ。乾元元年十二月朔日。少院宣イハヒ。此コノ御許ミヨコ。を蒙カウム。て。神領カミノリ。を
知チ。る。少と舊モト。の。如ごと。し。少正安四年十一月。禪林寺殿の執達。
三月と。以上三度の院宣あり。又。正安三年十月。同三年後。
三年十月。北白河宮。此コノ令旨あり。師繼イハヒ。此コノ少。名を師朝
少改アキラ。む。少れ。子コ。を。朝久アサヒサ。と云ひ。朝久アサヒサ。れ。子コ。を。片岡次郎定朝と

云ひ。定朝の子を。岡部次郎三郎常久と云ふ。此時より家の頭ガシラの巴を用ふ。まゝ定朝までを。片岡を称号とせしが。常久の時より。岡部と称せり。云へり。常久此子を。太郎馬政常と云ひ。政常此子を。五郎馬定詮と云ひ。定詮の子を。權兵衛政久と云ひ。政久の子。次郎左衛門政定と云ふ。政久は女子二人有りし故に。政定を養子と爲り。政定が。本生の父を。駿河。国人。引て。原氏と爲しと云ふ。然れども。是より未だ。女は。血脈をも。継し。あや。漢国。引て。は。女の血系を。ば。系とも。あき。如く。云。免れど。皇國。ハ。神。世より。志。て。女の系。も。系。立。て。る。故。に。於。る。事。あ。き。ぞ。神。隨。有。る。道。有。る。そ。ハ。掛。卷。く。母。畏。ま。天。皇。比。御。大。祖。の。女。神。小。御。坐。に。を。も。て。知。る。は。し。但。し。是。よ。於。き。て。心。得。べ。き。事。何。ゆ。そ。ハ。家。の。女。子。小。聲。と。り。て。繼。ふ。依。を。然。る。事。あ。れ。ど。家。の。男。子。小。聲。迎。へ。る。ハ。尋。常。の。事。よ。て。右。の。道。理。と。は。異。な。り。思。ひ。混。ぶ。は。ら。ら。に。ま。ま。此。に。就。て。も。心。得。あり。其。を。玉。祖。連。猿。女。君。挂。女。と。比。如。く。女。を。も。て。主。と。し。る。家。を。然。る。由。緒。何。れ。む。今。論。ふ。の。ぎ。に。非。だ。然。ら。ぬ。家。々。小。て。は。聲。と。す。と。も。其。家。の。主。と。

る。ま。と。云。も。更。あ。る。事。小。て。女。を。唯。其。の。血。系。を。繼。ぐ。る。耳。あ。り。此。道。理。ま。ま。思。ひ。錯。ふ。は。ら。ら。を。此。を。序。あ。れ。む。云。ふ。也。政定は。引馬原ヒシハラの御軍小功あてて。東照神君よ。來國行が。打。太。刀。と。丸。龍。比。具。足。と。戎。賜。を。也。然。此。事。は。三。河。記。小。も。見。え。と。也。引馬原の御軍を。謂。ゆ。御方。原の御軍あり。大人。の。文。了。ハ。引馬原と。記。れ。と。依。故。了。師。の。玉。勝。間。有。る。賀。茂。大人。の。傳。小。も。加藤。千。蔭。が。賀。茂。大人。の。墓。碑。小。も。引馬原。と。記。り。實。小。今。引馬原といふ。と。御方。原。と。云。せ。を。一。里。む。り。隔。れ。也。と。国。人。云。へ。り。此。に。政。定。比。時。ま。で。先。祖。よ。て。の。所。領。を。今。川。氏。の。爲。に。押。取。ら。せ。て。在。ける。を。新。よ。四。石。二。斗。を。寄。ら。れ。し。と。ぞ。政。定。比。子。三。人。あり。長。次。郎。左。衛。門。政。員。と。い。ひ。次。を。三。郎。兵。衛。後。よ。太。郎。政。次。と。云。ひ。三。を。三。郎。左。衛。門。政。武。と。云。ふ。兄。政。員。は。本。家。を。移。ぎ。て。賀。茂。新。宮。守。護。し。二。男。政。次。を。別。家。し。て。神。明。宮。八。面。荒。

神兩社の神主を持ち。三男政武も別家して三家とれ也。今も賀茂新宮。及び神明宮。八面荒神とも。社領の御朱印を賜ハリ在と云ふ。まゝ彼神君より賜れる具足も。政員が家小傳を正。太刀を政次が末れ家小在りとぞ。政武子れし。兄政次の男。次郎助政家の三男。與三郎政信初名を定。を養ひて子と爲は是大人は父主ふり。享保十七年閏五月。七十九歳よて歿りぬ。男子三人ありしが。二人は早世せ也。女子三人有也。是も一人は早世せ也。大人は末子ふて。幼あり也。しうば。二人は娘小聾を取りて。兩家とふに。長を長右衛門政盛と云ひ。次を與三郎政孝と云ふ。此の與三郎の末。今も賀茂新宮の社家とありて。本家次郎左衛門に隸け也。大人は。元禄十丁丑年。小。岡部村。もととは。岡部と伊場と兩村ありし。小て生れ給す。を今も一。は併せて。伊場村と稱ふ。

己。母刀自は。同郡天王村の。竹山孫左衛門茂家と云ぐ。女ふゆしと云ふ。いせ若くて。姉聾政盛の養子小外也。給するが。呼名を莊助。はと參四と云ひ。實名を。始免春栖。まゝ政躬と名告られ。まゝ此後。政藤と改えられ也。此。改名の事ども。小依て。かくて思ふに。旨れ有。是しう。其家を退きて。かの政定。此。次男小て。神明宮。八面荒神。兩社の神主れ。政次は曾孫。安右衛門政長の養子とれ也。其。女子娶給ひしが。此。女。享保九年九月歿られぬ。此。年。大人。二十八歳小外也。給す也。元文五年の紀行。岡部日記。九月四日。小も成りぬ。此。日。を先妻。此。失。小。日。あれむ。早く住。は。家。よて。何と問ひ。赤ど為て。墓。小も詣。る。小。い。おし。う。十七年。小。こ。を。成。り。子。あり。れ。云。く。と。有。て。御。哥。の。見。え。る。と。此。人。の。事。あり。

ほきたを。東方侶大人の姪あり云々。大人の呼名參四をも
とあり。国滿ハ。国頭が子ありとぞ。大人の呼名參四をも
改免て衛士と稱られは。實名政藤をも。後小眞淵と改ま
らむ。此は遠江國の敷智郡れ名よす思ひよすて。負給
了と聞ゆ。村田春海が語す。銚胤云。六の通稱參四
れし由云れしハ。傳聞の誤らむ。其岡部次郎左衛門の
家小て。幼名を參三と書て。サウザウと呼ぶ人何まよ有
と。今の次郎左衛門政美の語。ちて享保十八年小京了上
す。荷田翁の教子とれす給ふ。こは三十七歳もれす給了
時あり。然る小元文元年七月小。荷田翁身退らむ。享保
年より。元文元年まで。其間四とせあり。是をもて。万葉考の
哥を解。こをさる。詞を云條。おのれ眞淵。これ荷
田の田をさの齡れ末。名簿をおく。とを書と。然る
を。春葉集の荷田信郷が序。眞淵在。下大人止門。二十年所。

と云ハ。崎人傳。春滿小從。家僕のごとくして。京師小学
ぶ。こと年あり。と書る。あぞ皆誤あり。扱々の西帰とも。旅
のあぐさ。やも云ふ記。京より濱松まで帰ら。聞の記
を。見えて。久しくあり。小れ。思へば。猶恋しきも。故郷小を
あ。あ。い。や。白。地。よ。も。ま。て。來。れ。む。と。て。や。む。ご。と。あ。き。御
わ。す。を。思。へ。む。其。歸。れ。し。ハ。元。文。二。年。の。末。う。ち。ぬ。書。れ。し
る。を。思。へ。む。其。歸。れ。し。ハ。元。文。二。年。の。末。う。ち。ぬ。書。れ。し
前。小。も。を。す。故。郷。に。歸。れ。し。と。聞。え。て。江。戸。よ。り。岡。部
牙。歸。れ。し。時。の。謂。也。岡。部。日。記。一。名。東。歸。小。あ。れ。都。に
在。於。る。不。ぞ。ハ。白。地。ふ。が。ら。年。の。末。う。ち。ぬ。書。れ。し。大人加く。
お。ど。あ。れ。ば。然。の。み。も。非。ざ。す。し。を。と。書。れ。と。ゆ。大人加く。
荷田翁小事。給ひしは。お。か。ら。四。年。に。間。あ。す。し。の。少。學。問
の。道。ハ。素。よ。す。凡。あ。ら。び。智。深。く。お。は。せ。る。が。故。小。荷。田。門
れ。人。も。多。加。ゆ。と。聞。ゆる。中。小。一。人。怒。り。出。て。そ。れ。正。意。を。バ
得。ら。ま。て。ぞ。有。れ。依。其。を。荷。田。門。小。大。人。を。お。死。て。外。小。大。人

の如く。師小勝れる人れお紀ふて知し。此もお本万葉解
沖此解得るも。亦十小三四ある由を記して。然て荷田
翁の功を述べて。時成りもよ。其頃少し後れて。荷田東万呂て
ふ人。玉しきの平比都の南より出て。空ミ於大和のふり
し道ひろくわさゆ。具了ふみ分け。和泉の宮本。足柄比舟
木。月の桂。星比林といふ。遠く引き近く。推りて。まよ六
志。お七しあばら。の標。をおむ作り。出れる。云く。抑。真淵が
遠於祖。賀茂の成助てふ人。ちはやぶる。神山比麓。有て。松
の。益。せ。ぬ。言。れ。葉。を。世。こ。も。傳。へ。其。齋。ハ。う。ち。日。さ。は。大。宮。よ
仕。ま。お。り。て。命。婦。の。未。お。し。も。有。れ。む。其。が。お。係。し。を。も。古
き。書。の。は。し。を。も。且。今。了。傳。来。ま。る。お。於。り。て。遠。き。代。れ
忍。ぶ。お。く。古。き。書。お。む。床。し。か。ゆ。け。床。故。都。よ。上。り。て。後。世。の
手。ぶ。お。を。も。訪。ひ。東。万。呂。が。古。き。道。も。入。て。此。志。を。繼。が。む
事。を。受。く。と。云。へ。ど。も。お。は。く。の。工。お。し。も。高。き。階。お。く。ら
む。は。斧。を。損。む。事。お。そ。畏。り。お。は。云。く。と。書。れ。穂。積。集。序
よ。お。は。此。東。麻。呂。大。人。の。お。く。ろ。此。道。を。お。ぎ。て。ひ。お。ぶ。る。り
砂。上。お。ぶ。る。き。世。の。心。を。も。て。高。き。解。し。た。誘。ひ。お。く。己。が。ま。き
ま。き。お。り。け。る。を。近。き。比。お。む。ぐ。ら。門。字。も。常。に。訪。を。お。く
は。り。自。然。ら。ら。古。代。世。の。花。さ。へ。実。は。有。る。を。摘。は。や。れ

傳くれむ成りける云々。語意考の跋。山城の稻荷に祝が
家子傳へし。百たらび五十。聯此音乃あと。少りあるを取て。
荷田東麻呂の大人。千万於の古言を考へけ。依りて。世人
の。い。ま。ど。心。得。ざ。し。事。ら。を。得。て。事。問。ふ。人。了。傳。へ。し。ま。己
も。少。け。む。り。ゆ。聞。き。お。を。あ。ぎ。し。と。お。て。遂。ま。い。ま。り。汐。れ
八。百。路。を。行。惑。を。さ。ら。む。事。字。加。予。む。や。云。く。此。ら。此。文。を
見。お。ふ。し。て。賀。茂。大。人。の。荷。田。翁。が。本。志。を。繼。れ。し。事。ハ。知。れ
れ。ゆ。猶。こ。の。類。ある。文。ど。も。多。り。れ。ど。然。れ。こ。は。引。お。も。出。だ
む。加。く。て。四。十。二。歳。小。れ。了。給。了。る。元。文。三。年。と。い。ふ。年。お。そ
此。妻。子。お。ち。は。濱。松。の。梅。谷。此。家。小。れ。お。し。置。て。江。戸。よ。出。給
ひ。同。じ。五。年。の。秋。苟。且。小。濱。松。よ。歸。了。給。ひ。此。時。の。紀。行。を。岡
寛。保。三。年。お。も。は。り。歸。り。給。へ。了。此。後。延。享。二。年。お。も。濱。松。了
後。岡。部。日。記。を。云。ふ。さ。る。を。手。向。草。お。る。内。山。真。竜。が。大。人。を
志。の。ぶ。文。ま。と。與。清。が。大。人。の。傳。子。寛。延。三。年。江。戸。小。下。り。給
了。了。と。書。お。る。を。誤。了。お。り。江。戸。小。出。給。ひ。し。を。寛。延。三。年。よ
り。も。前。お。る。事。は。万。葉。集。遠。江。哥。考。の。末。よ。寛。保。二。年。お。江。戸

小て著し給へるよし見ッ其は森暉昌^{シカ}など親友と議^{ハカ}して。
えさるゝても知べし。古學を世に弘く傳^{ツタ}ふと。大志を振起^{アゲ}し給^ル。依所^{ツキ}爲^ルあり
志とぞ。実^{コト}さも有べく思ふ由^ニ。万葉考の始を記されし。
ろ攝津の契沖不ふし山城の荷田大人を唱^ナす。同じ時^トに在て。相
とはぬ物^トら。同じ心を起して。古ぶりを唱^ナす。りり。相
た古き哥をとき記^ルにわさ^レ。新治^ニに於れど。未^ダよくも殖^ル生^ル。
し益さぬ不^レぞ。不^レ過^ルよしこそ惜^ムら^レ。大^ニ人^ノハ哥のみ^ハ。舊^ク
ぬる千^ニぢの書どもを。荒^クをた^ル。不^レせし。勞^クき多^クふ^レ。ま^ダ
却^ル收^メめ^ル。各^ノ簿^ヲをおく。不^レ病^ムふ^レ。己^ノ眞淵^ヲ。あ^レ。荷田の田をさ^レの。鈴
此^ノ末^ヲよ。各^ノ簿^ヲをおく。不^レ病^ムふ^レ。己^ノ眞淵^ヲ。あ^レ。荷田の田をさ^レの。鈴
き時^ヲをる。水^ノの。之^ノ乳^トも。と。遠^クも。あ^ラ。徒^ラ。不^レは^レ。さ^レ。し^ト。覺
え。秀^ト。と。思^フ。不^レ事^ラを。聞^ク。喜^ビ。ぼ^ル。の。み^ヲ。あ^ラ。少^ク。然^ル。して。よ^リ
こ^ノあ^ラ。彼^ノ方^ヲ。や。古^ノ川^ノの。べ^レ。古^ノき。事^ヲを。忍^ビ。て。半^ノ時^ヲ。不^レ水^ヲ。沫^ル
き垂^リ。向^テ。股^ヲ。泥^リ。き^キ。を。せ^ル。此^ノ。奥^ノ津^ノ御^ノ年^ヲを。得^ル。ま^ク。な^レ
ど^ノ。い^ウ。で。獨^リ。の。之^ノ。か^ニ。あ^ラ。る。む。天^ノの。下^ノ。繁^マ。せ^ル。武^ノ藏^ノの。大^ノ城^ヲ
此^ノ。許^ノ。不^レ來^テ。千^ノ万^ノ。於^テ。人^ノ。此^ノ。心^ヲ。を。思^フ。諸^ノの。手^ヲ。ぶ^リ。を。見^ク。伏^キ
ぐ^サ。此^ノ。言^ヲ。ば。を。た^ク。末^ヲ。や。む^ゴ。と。あ^ラ。き。大^ノ殿^ヘ。参^リ。ゆ^テ。伏^キ。い

不の所せき心字見いろ。思ひ改めてこそ。少く雄くしき
倭魂を覚えけれ云く。猶お不^レあ^ラ。く。誤^ル。こ^ノ。や^モ。多^ク。う^リ
あ^ラ。む。思^フ。ひ。お^ハ。む^レ。不^レ。あ^ラ。き^キ。を。何^ヲ。せ^ル。む。足^ヲ。引^ク。の。山^ヲ。不^レ。や^ク
の。足^ヲ。徳^ヲ。の。足^ヲ。み^ツ。ぎ^ト。も。成^ル。あ^ラ。む。ま^デ。不^レ。あ^ラ。の。人^ヲ。作^リ。ひ^テ。し^ガ
も。收^メ。免^テ。し^ガ。も。や。書^レ。し^マ。て。知^ラ。れ^ト。不^レ。此^ノ。文^ヲ。よ。荷^ノ田^ノ。此^ノ
田^ヲ。を。さ^レ。と。云^レ。れ^シ。は。更^ニ。あ^ラ。り。足^ヲ。引^ク。の。山^ヲ。ほ^ク。と。云^レ。く。と。書^レ
れ^シ。も。東^ノ麻^呂。翁^ヲ。を。い^ハ。不^レ。此^ノ。文^ヲ。不^レ。も。彼^ノ。翁^ノ。の。志^ヲ。を。繼^グ。れ^シ
こ^ノ。や^ク。著^ク。師^ノ。の。道^ヲ。字^ヲ。守^ラ。せ^シ。実^ノ意^ヲ。の。不^レ。江^ノ戸^ノ。不^レ。出^ラ。れ^シ。始^メ
ども。知^ラ。ら^レ。ま^デ。不^レ。不^レ。云^フ。も。更^ニ。あ^ラ。り。江^ノ戸^ノ。不^レ。出^ラ。れ^シ。始^メ
免^ノ。不^レ。村^ノ田^ノ。春^ノ海^ノ。が。父^ヲ。此^ノ。春^ノ道^ノ。と。い^ハ。し。神^ノの。道^ヲ。を。好^ム。免^ル。人^ノ。此^ノ
家^ヲ。不^レ。寓^ノ居^ノ。せ^ラ。れ^レ。依^ノが。後^ニ。不^レ。千^ノ蔭^ノ。が。父^ヲ。此^ノ。枝^ノ直^ノ。と。云^ハ。し。
歌^ヲ。を。好^ム。免^ル。人^ノ。の。招^キ。不^レ。其^ノ。ち^ヲ。う。鄰^ノ。不^レ。家^ヲ。を。作^リ。不^レ。住^ス。る^ニ
不^レ。北^ノ八^ノ町^ノ堀^ノ。と。い^ハ。ふ。所^ヲ。不^レ。春^ノ道^ノ。を。村^ノ田^ノ。平^ノ四^ノ郎^ノ。と。て。町^ノ人^ノ。あ^ラ
与^レ。力^ヲ。を。仕^テ。奉^ル。れ^ル。人^ノ。あ^ラ。り。春^ノ道^ノ。が。上^ノ。代^ノの。道^ヲ。を。好^ム。免^ル。人^ノ。あ^ラ
し。お^と。大^ノ人^ノ。の。書^レ。れ^シ。春^ノ海^ノ。が。兄^ヲ。此^ノ。春^ノ郷^ノ。が。墓^ノ碑^ヲ。不^レ。父^ノ。春^ノ道^ノ。ハ

神の道字傳へ。春郷いふし。牙の宮にを得たり。と書れし。て知られ。枝直ぐ招きよて。其鄰に家子作られし事ハ。枝直此哥集あぢま哥といふ物の。千蔭が序に。千蔭十まり四の年。小く有む。縣居の大人を。ちり鄰に招き住せ。互にむ。おび相され。千蔭ハ。か比大人の。教を。受よ。と。大人ぬむ。各簿を。ねくらせ。給ひ。ると。有。小。て。知られ。と。り。大人江戸。小。出られし。と。也。梅谷といふ。稱號を。や。免。て。本生。此。岡部といふ。よ。復され。も。也。然れ。ぞ。梅谷。茂。離縁。せ。依。よ。は。非。ざ。也。し。と。ぞ。梅谷ある大人の。妻。刀。自。は。濱松。よ。在。り。て。江戸。よ。下。ら。ざ。宝曆元年九月。没。られ。と。り。其。生。み。と。る。子。を。市。左。衛。門。眞。滋。と。い。ひ。し。が。寛政十一年。斯。て。大人。此。名。世。正月。子。身。退。り。し。と。ぞ。是。大人。の。実。子。也。也。斯。て。大人。此。名。世。小。高。く。聞。え。し。ら。ば。延。享。三。年。小。田。安。金。吾。君。小。召。上。ら。ま。て。古。學。此。道。の。博。士。と。爲。さ。れ。給。了。也。但。し。田。安。の。大。殿。よ。召。上。れ。給。へ。る。と。上。小。引。と。依。春。禁。集。此。序。よ。ま。る。小。是。よ。り。前。小。荷。田。在。滿。が。仕。所。申。せ。る。を。其。退。く。時。了。大。人。を。薦。奉。せ。る。了。依。て。亦。在。滿。が。彼。

殿を退る事ハ。其説の君子遇さ。依故。也。と。誰もい。牙。と。実。了。ハ。彼。大。嘗。會。便。蒙。を。板。了。願。て。世。よ。傳。へ。と。る。小。事。起。り。て。殿。の。御。心。も。非。を。退。り。給。ひ。し。ら。む。在。滿。瀧。く。辱。三。奉。也。多。大。人。を。吹。奉。せ。る。也。と。其。殿。人。よ。聞。と。り。然。も。有。べ。く。思。は。は。い。事。も。有。れ。か。く。召。上。ら。れ。給。ふ。時。了。上。小。記。せ。る。引。馬。と。今。も。も。ら。し。也。原の御軍小功也。政定此次男。政員よ也。相續して。賀茂。新宮小仕ふる。次郎兵衛定重を養親と爲て。出られしとぞ。あ。の。定。重。と。い。ふ。は。政。定。六。代。の。孫。よ。て。岡。部。の。嫡。流。也。れ。也。斯。く。を。爲。ら。ま。し。と。聞。え。と。り。此。家。代。く。次。郎。左。衛。門。と。稱。て。伊。場。村。よ。住。て。新。宮。の。神。主。也。金。吾。君。此。大。人。を。殊。小。愛。さ。せ。給。ひ。し。也。也。は。大。人。此。家。集。ハ。更。也。也。餘。書。小。も。何。く。れ。と。所。見。あ。る。中。小。家。集。小。寶。曆。四。年。霜。月。殿。の。四。十。姓。御。賀。の。宴。小。侍。也。也。詠。了。奉。ま。る。大。君。の。ほ。も。り。と。れ。ま。る。君。あ。ま。ば。君。が。ま。は。い。を。神。

ぞ守らむ。夜ふけて入らせ給ふを。御を怒らせ給ひて。眞淵よとて賜はせるは。いぞ多う依人く此中おて。いぞ面だふ志く侍るも。思やえど辱た子。あふひてふ綾は御ぞをも氏人れ。う於らむ物と神や知りむ。と詠れしを。斯て志ゆ牙の詞書よ。己が遠祖を山城の賀茂より出て。文永の頃うハ。遠江の岡部は郷を賜て。給旨おども有る。其後二荒は宮は大神。濱松よまあ。頃御軍おいそしとて。御刀をしも賜せしを。其後ハさ依さるの事も有ざりし。お。己おもちえ。御紋の御衣を賜て。は。家集小。寶曆五年の秋。いぞおを古ざは。作りは依小。九月二十六日。人くおどひて。祝歌をみける。詠る。飛驒とくみほえて作れる。眞木柱。あふし心は動う。げはし。下の詞書よ。こまハ今日おど牙るを。我が古の書は学

バの道つとふる人くあ。まバ。かく云牙。とあり。同じ九年正月。同族おて。濱松の城主。松平豊後守殿お仕ふる。岡部彌平次政舎の女子を。江戸お下して。養女とれし。中根某は三男を。賀よ取て。次郎左衛門定雄。と名告せ給へ。此政舎を大人は再従弟ありし。この女子は父政舎。主君に随ひて。丹後。国宮津に徙る。但し。付て。大人の例に因て。次郎兵衛定重の養女とて。江戸に下され。とりとぞ。此女子。名ハ悦子と云。又此。政舎の子孫は。宮津の殿お仕へて。今も稱せぞ。ちて翌依十年。小年老。あ依由を。ま残して。十一月六日。小。仕牙を退。お給ひて。養子に。二郎左衛門定雄。ぬし。家を督。お給ふ。は。此。年。小。荷田翁は御霊。まおめ。を行ひて。人く。茂集。牙。て。歌。の。圓。居。し。給。ひ。ら。了。其。を。筑。波。子。哥。集。よ。東。麻。呂。大。人。の。祭。を。賀。茂。の。翁。は。家。お。て。お。給。ふ。を。り。と。あり。

詞よ。荷田の宿祿。身まうて給ひて。今。年。は。と。せ。餘。り。五。と。せ。う。あ。む。成。り。と。れ。た。い。と。嚴。め。し。く。神。々。し。う。御。冥。ま。於。て。奉。れ。給。ふ。か。く。ま。誰。も。お。や。の。お。や。と。し。争。ひ。思。牙。む。人。く。も。何。く。ま。と。手。向。け。奉。れ。給。ふ。云。く。か。の。御。魂。を。や。う。於。せ。こ。と。ま。せ。し。ほ。ど。う。ら。れ。も。倭。の。も。學。び。れ。通。つ。く。し。給。ひ。日。れ。も。や。ま。有。り。を。あ。る。書。ど。も。見。し。明。ら。給。ひ。下。れ。る。世。よ。廢。れ。る。古。評。を。し。も。興。し。給。ひ。ら。り。其。道。を。わ。ち。ち。於。於。人。の。傳。へ。給。ふ。が。中。子。在。麻。呂。れ。出。し。へ。て。專。れ。ち。や。け。の。官。位。の。ま。ぢ。を。お。だ。り。聞。え。給。ひ。お。が。大。人。牙。は。古。事。の。學。び。れ。道。を。教。牙。殘。さ。せ。給。ひ。ら。云。く。言。は。ハ。昔。を。今。お。れ。し。然。れ。ど。過。ふ。し。君。を。歸。ら。ざ。り。ら。と。有。り。て。知。ら。れ。ぬ。り。荷。田。翁。身。ま。う。て。給。へ。る。元。文。元。年。よ。め。實。は。二。十。五。年。お。當。り。明。和。元。年。と。云。ふ。年。お。濱。町。と。い。ふ。所。お。移。り。給。ふ。其。は。上。田。秋。成。が。集。え。し。縣。居。集。り。寶。曆。十。四。年。れ。秋。濱。ま。ち。と。云。ふ。所。牙。家。を。移。し。て。庭。を。野。邊。ま。と。畑。お。於。く。て。所。も。い。は。く。う。傍。お。れ。む。名。を。縣。居。と。い。ふ。て。住。を。免。け。る。九。月。十。三。夜。お。

月。老。で。む。と。て。親。し。た。人。と。集。ひ。て。歌。よ。み。ら。依。於。い。て。よ。詠。め。依。と。有。る。五。首。れ。中。お。ま。ち。ろ。ざ。れ。鳴。や。縣。の。こ。が。宿。お。月。加。げ。き。ふ。し。訪。ふ。人。も。が。ぬ。縣。居。の。ち。ふ。れ。露。原。か。き。わ。け。て。月。見。お。來。於。る。み。や。あ。人。か。も。と。有。り。賀。茂。翁。家。集。の。千。蔭。が。庭。を。田。の。の。さ。ま。お。作。り。て。賀。茂。の。か。蔭。祿。よ。も。由。有。れ。バ。か。せ。て。自。ら。家。れ。名。よ。ハ。負。せ。ら。れ。と。い。せ。ら。と。云。へ。ゆ。か。く。て。同。じ。六。年。お。病。あ。り。ひ。て。十。月。晦。日。れ。日。お。七。十。三。れ。齡。み。て。ぞ。身。罷。り。給。ひ。け。る。崎。人。傳。り。終。る。歳。八。十。有。豫。て。言。ひ。置。れ。け。る。は。く。お。江。戶。れ。南。荏。原。郡。品。川。の。東。海。寺。於。る。少。林。院。の。山。上。り。葬。れ。り。世。の。お。み。よ。佛。法。に。た。く。と。名。を。參。ら。せ。て。玄。珠。院。眞。淵。義。龍。居士。と。ぞ。申。は。る。○。鍊。胤。云。こ。の。縣。居。大。人。の。御。傳。も。先。人。の。年。お。ろ。同。持。と。ま。於。る。事。れ。多。う。る。上。り。殊。更。お。彼。国。人。よ。問。あ。ど。も。し。て。記。

著されし物あるが傳聞の誤みや系譜の中よおれり
違へる所ありとて去らば草鹿砥宜隆ぬし羽田野敬雄ぬ
しおど祿もあろふ大人は家元ぬる次郎左衛門政美ぬし
小問こもんし熟く改えたる巻を亦む持來て見せらむとる小
甚く驚おどろうれて吾父今も世に在らむと此を黙止すべき
事こと非ざればやがて其由よし靈たま前まへ白しろしてことし安政六
年十一月其ふしく悉ことごとく彫う改かえある小ぬむ讀見む人く
これ由を心得てよ○国人夏目甕麻呂が語ふ大人ハ濱松
の梅谷が家の一代は主として家職を修めながら明暮
古事学びお心をせして其道を學び其道を教へむとのみ
思ひこらしめてねはしとる字此翁家おきなは世にせり坐ませ
己らむ竈かまどハ非たがま若わかれど家教けがうくべき子こささ坐ませ
を學まなば道の為ためハ何なにうとあど心ある人くろく此こがし云
庵いんハおぼしめしと雄心ゆうしんおこして江戸江戸小參こまり田安
の殿のどの了り仕つか奉ほうり給たまへり世よはひとぶぶゆる徒たごもあるハたよ於
かれ出いで給たまへる人のごを聞きひがえゆる徒たごもあるハたよ於
假かりまひぬるとやおむしけむ古郷こきやうおとはしく此こと思おもむ
れて學まなの功こうもや成なりむ後のちハいいのででと下くだふたお
し渡わたり給たまふ問もんも何なにくれと殊ことある御ご惠めぐみどもた重おもかりお

ゆきよ心あらばも然しかてあむ過あやし給たまへりとや其そのちり
近ちかき人ひとくの家いえく小傳せうでんへ持もたる翁おきなの消息しよき文ぶんあるは齡とし多おほか
まま人ひとれ物ものがとて杯さかづきをたなく聞きあつむるも其その心こころざし
程ほどをたし計はかりらむおし云いくと云いはげり然しかる言ことばあり此
は大人の遠とほ江え哥が考かうの板いた抑おさ大人おとなの御ごいいちをし此事このことは師しれ
本もとある跋はく子こ見えたり

玉勝間たまがたにあ依よ縣居かたがたれ大人おとなは古學こがくれ祖そある事ことといふ條じょう子こ漢
意いを清きよく離はなきてもはら古ふるの意詞いご字じ尋たづぬる學問がくもんをわが縣

居い大人おとなよとぞ始はじめまてける此こ大人おとなの學まなれいまぞ起おこらざり
し間まの世よれ學問がくもんを歌うたもあぐ古今集ここんしゅうよと以來いらいおれみ止とま
てて万葉まんやふあむは唯ただいを物ものとなく心こころも及およむぬ物ものとして更
小其歌こそのうた乃すなはち悪わるき我われ思おもひ古ふるき近ちかれ字じ辨わりままと其詞そのことばを今
れ己おのが物ものととて用もちふ事ことれぞハ凡すべて思おもひも及およばざりし事こと

ふゆふ。今はそれ古言を己が物と志て。万葉ぶよの歌をも
ふみ出で。古ぶよの文れど残さず書得るふやう成れるは。
全出れ大人の教育れ功うぞ有々依。今の人己自から得
あるごせ思おめれど。皆これ大人の御蔭よまらばと云ふ
事れし。はと古事記。書紀ふぶの。古典を伺ふも。漢意も感
はさま交。先もはら古言。残明ら絶古意もま依べき事を人
みお知れる母。此大人の萬葉れ教育の御あまふぞ有ける。
抑かく依尊紀道を發支初らむとる勤まは。世にいみじた
物あよかし。と言れぬ依が如し。あ本何くれの書等おも。此
まし詞を。今うぞふる。暇あら。か。かくて其常の御有状。ま
ど。所せきわがまき。今は洩し。か。かくて其常の御有状。ま

あそれ詠歌のふゆふは。御許小親く久小仕育あよし。橘の千
蔭が言小。千蔭いと若うよしよ。大人う從ひて。常れ御あ
よ状まよ宣言よし言を。親く見もし聞も志おる小。大人を
今れ世の人をハ異小志て。打見うは。さかしよ方は後れて。
心遅きさほり思はれしう。適よいひ出給へ依言小。敷嶋
の倭あろを顯ハし。一言と志て。雅あらざる事あり。記。
上田秋成が集めし縣居集の序小。心志と集ばうりか。作
れる家居。あならに調度まで。古へを志のびて。かより
く。考へ出。して。玩。るもれ。此縣居よ。如く小
詣づる人。をさ。上り。とる世の人。あへる。が。如く小
む有。と。語り。筆と。て。物。給。ふ。を見。依。小。五百とせ
傳へ。と。ゆ。云。記。筆と。て。物。給。ふ。を見。依。小。五百とせ
も經。小。け。む。筆。れ。迹。の。如。く。あ。む。有。々。依。此。を。あ。る。と。年。よ。依

比ると邪く。古こそ我のみ心ヲ志免て。家居よ。調度不
 至。依まで。古おとて。少くも後世の事を。耳おふま心ヲ
 免給はざ。しうば。自給あら。古人此心ヲ知。てもて。行て。
 其心よ。云出もし。物かきも。志給ひし。不依て。こそ。然有け
 る。志免。大人の筆。れあ。とを。ありて。十歳。筐と。名け。る。物
 依し。み。出来。は。じ。まり。と。る。志。ま。バ。好。ま。悪。き。論。ふ。は。く。も。あ
 ら。熱。筋。ある。物。ら。古。へ。人。の。書。る。あ。と。志。見。ま。む。心。さ。清
 麗。な。覚。也。依。ハ。い。る。あ。る。故。ら。う。と。思。ふ。ら。其。い。お。し。へ。人。れ
 妻。亦。お。れ。る。真。心。れ。お。の。づ。ら。ふ。み。で。お。あ。ら。は。る。小。よ
 り。て。お。ま。り。ゆ。わ。が。懸。居。れ。大人。ハ。古。し。へ。の。学。び。れ。道。を。し
 も。導。き。給。ふ。を。ま。心。て。手。か。く。己。さ。を。專。と。せ。ら。ま。つ。る。み
 非。給。ど。書。給。へ。る。あ。と。此。自。給。ら。古。へ。人。れ。さ。は。ま。ら。う。よ。ひ
 て。己。が。と。も。が。ら。れ。人。の。何。と。を。志。え。ひ。て。其。形。ち。を。う。つ。し
 得。る。あ。ぐ。ひ。み。し。も。あ。ら。孫。バ。真。心。の。い。お。し。へ。人。ヲ。ひ。ま。志
 う。ま。む。志。免。と。し。も。云。へ。ゆ。さ。ま。ど。己。ま。と。思。ふ。義。あり。其

といふし年井上清風といひし彫刻師。まきける事。何ゆ。そ
 は此清風。まし。も。大人。の。万。葉。考。一。二。卷。を。こ。び。う。ら。書。て。板
 小。あ。ら。し。め。給。ふ。時。あ。ど。し。者。ど。も。の。彫。ら。る。御。心。ヲ。應
 じ。て。よ。き。彫。人。を。求。免。給。ふ。時。清。風。二。十。歳。許。ま。て。在。り
 依。が。其。彫。れる。さま。御。心。ヲ。う。ふ。ひ。て。常。に。大人。の。御。有。状。を
 見。覚。え。て。語。れ。る。小。王。義。之。天。朗。帖。ハ。風。を。好。て。常。に。学
 む。れ。ま。と。皇。国。の。上。代。風。を。も。常。小。学。を。ま。る。ら。其。こ。ろ。東
 江。源。麟。と。い。ひ。し。書。家。の。も。と。唐。様。を。の。こ。物。せ。依。子。勸。め。て
 皇。国。の。上。代。様。ハ。漢。風。は。は。さ。り。て。麗。し。き。由。を。説。論。さ。れ。し
 う。た。源。麟。の。説。了。服。し。て。此。方。ハ。古。ま。書。ぶ。り。も。学。び。て
 後。に。道。風。ハ。秋。菽。帖。を。も。改。免。て。物。せ。り。と。言。ひ。き。此。を。誠。に
 然。も。有。べ。く。思。ふ。由。ハ。古。言。梯。の。跋。ハ。御。書。ふ。己。を。見。る。小。実
 子。母。天。朗。帖。ハ。書。風。よ。ま。く。似。ら。れ。と。言。ふ。ま。と。屋。代。弘。賢。翁。し
 の。物。語。り。ハ。賀。茂。翁。を。持。明。院。家。の。門。子。入。己。し。人。あり。其。を
 彼。御。家。よ。賜。へ。り。し。免。状。う。己。物。ヲ。出。さ。る。を。三。品。某。が。見
 て。語。れ。る。事。あ。己。と。云。れ。き。大人。ハ。何。く。れ。と。物。し。給。へ。る。草
 稿。そ。の。若。き。程。の。詩。集。の。あ。く。ひ。ま。と。然。る。免。状。ま。で。も。賣。物
 志。出。さ。依。事。ハ。清。水。濱。臣。と。い。ぬ。し。哥。作。り。が。大人。の。御。後。志
 る。今。ハ。岡。部。氏。を。計。己。ま。う。して。然。る。物。と。も。の。入。さ。る。を。一
 筆。己。が。物。と。志。せ。る。後。に。賣。出。さ。る。志。此。事。お。れ。志。慥。に。聞

知れる事あれど。はる其歌の風をかく古小勤末給ひし中
委くハ記さば。はる其歌の風をかく古小勤末給ひし中
小も歌をば殊小心高くもて於りて物せられぬれば歌一
首よみ出給へ依り母淡くかうが牙敷とび味ひておと此
出らましれ。歌のさほむ始老と中ぶろを末と三初の花
ざみ有り花初めれ布ぞは物學び給へ依。荷田は東満宿禰
れ歌の風小加ふひて。花や花手弱き風ふ。中頃よ
自かられ一初の花姿と成て。みやび小して調高く。あも雄
雄し花筋をらみ出さ。齡の末子至るハ。太丸思ひ上り
て設け花飾ら。誰も心れ及加ふ花節をれみ作ら。花を
云。大人のをみ哥。初中末の三段ありし事を藤原宇
万伎が記し集めて。上田は秋成またくれる。大人の

哥ども。の末小はやく論ひて。世に聞知る人のありや無し
や。や云り。秋成が彫る縣居哥集を見て知べし。崎人傳も
も其説を出して。蒿蹊云。これ老の後れ。己も聞ある人の
敷よ入。べし。ま。若き布どの。後乃世のさほあれ。哥
し。後。の意。うハ。叶を。ら。老。ど。其。花。長。ある。を。花。回。也。加
か。ま。む。こ。そ。一。家。れ。学。を。も。唱。へ。出。し。り。れ。中。さ。あ。の。ハ。姿。詞
人。字。驚。う。せ。ど。実。よ。ハ。カ。母。入。さ。る。物。あ。ま。む。我。も。く。と。ま
孫。び。詠。む。人。多。く。と。く。も。心。得。ぬ。ら。ら。は。腹。を。捧。ふ。る。小。堪。さ
る。物。も。ほ。聞。也。ま。ま。国。文。を。此。野。一。躰。ま。は。じ。む。古。言。を。と
て。ま。じ。へ。て。下。言。も。字。音。を。交。へ。を。記。の。う。あ。よ。み。ま。ま。祝。詞
を。と。む。が。如。く。し。て。あ。う。も。自。れ。布。他。し。人。く。小。も。大。人。の。歌
在。あ。る。も。れ。あ。り。と。云。へ。也。れ。布。他。し。人。く。小。も。大。人。の。歌
れ。よ。み。口。残。布。免。稱。了。し。倫。ひ。を。敷。ふる。小。暇。あ。ら。ば。然。れ。ど
大。人。の。本。意。は。荷。田。翁。れ。意。残。受。て。上。代。の。道。を。明。さ。む。を。欲
依。り。依。り。万。葉。集。を。明。ら。む。る。小。及。は。あ。し。と。思。は。れ。し。故。り。
稽。古。れ。料。小。歌。字。も。詠。ま。し。あ。れ。也。實。よ。ハ。專。業。と。せ。ら。れ。し

事小を非ざりゆ。其は我が鈴屋翁始て大人を見えら
れし時。古事記の注釋を物せむと思はゆ。由を申す
し。我も元よ。神典を釋む。思ふ心さし有る哉。其は
抄漢意を清く放れ。古にまるとけ意を尋ね得。其は有
る。然る小その古。乃意を得む。古言を得る上
れらでは能く交。古言を得む。万葉を明く。明く
あそ有れ。さゆ故。吾は先もはら万葉を明ら免むと欲
程。既。年老て。殘。の齡。今い。くば。くも有。され。神。御
典を釋く。は。小至る。と。得。さ。ゆ。を。汝。を。年。ち。加。ゆ。小。て。行
きた。長。け。ま。バ。今。と。怠。れ。こ。も。無。く。勤。み。學。び。あ。は。其。志。し

遂る。大。望。有。げ。し。と。諭。し。給。へ。る。小。て。知。は。し。是。は。お。き。て。己
小。聞。さ。る。事。あり。然。る。ハ。此。を。と。こ。或。と。た。大。人。の。言。ひ。け
給。ふ。事。あり。其。御。前。に。在。り。御。教。子。あり。し。河。津。長。夫
とい。ひ。し。人。大。人。は。何。く。れ。と。物。問。ひ。て。在。し。お。い。で。大。人
を。上。代。の。道。の。学。問。こ。そ。專。や。あ。る。学。び。あ。れ。と。諭。し。給。ふ。其
其。方。の。学。問。さ。る。人。と。て。有。こ。と。ふ。く。哥。の。之。詠。あ。ら。ひ。侍
る。を。大。人。に。制。し。給。を。然。ハ。何。あ。ゆ。由。り。と。申。せ。る。小。大。人
に。答。へ。て。哥。よ。む。こ。は。我。が。本。意。は。非。孫。ぞ。教。子。ど。も。の
み。亦。哥。よ。み。と。成。さ。と。ハ。譬。へ。を。父。母。の。いと。愛。く。思。ふ。女。子
何。く。れ。と。手。わ。ざ。ど。も。恥。ら。し。か。ら。を。習。せ。て。年。比。ま。り
れ。を。高。く。宜。は。し。死。夫。を。え。ら。び。て。嫁。せ。む。を。思。ひ。設。け。て。在
る。小。其。女。と。し。頃。ま。あ。り。て。父。母。の。思。ふ。と。異。ま。さ。る。高。き
人。は。物。む。づ。し。と。て。拙。く。申。き。男。は。ち。死。り。て。親。の。心。不。達
ふ。を。然。に。小。捨。も。や。ら。れ。を。許。し。嫁。せ。さ。ら。む。が。如。く。上。代
の。道。に。等。き。を。嫌。ひ。て。申。き。哥。作。り。と。あ。る。人。の。み。多。ま。何
と。せ。む。若。徒。の。中。に。ハ。哥。よ。み。お。い。て。遂。小。ま。こと。は。学。問。小
至。る。人。の。出。來。も。や。せ。む。と。然。て。あ。る。也。と。苦。笑。ひ。し。て。宣。ふ
小。長。夫。然。し。母。歎。息。せ。ら。れ。侍。り。き。を。語。れ。り。是。ま。然。も。有
げ。く。思。ふ。由。あり。其。を。家。集。ま。河。津。長。夫。を。に。め。ら。御。国。の。書

のまねびを我が道にきかると元より加らの書をもちく
讀むに十月十七日小身まうと云と遺せし書を聞く
を煩ひて口をし其後とむらひ言ひ序に美樹が許へ
我が道も所そむ人をも今玉のをみ送りて感ふころ
らぬとあむま長夫が今時よまらるをハ空しくあ
てて父母のあげきをのみやせし残さしと云ひてま
我を心ざし遂に我を名をも著はしてよれど美樹は
いひ置しとぞ此哥ハ憶良の大夫のまらなや空しう
あき万世よとり継べき名をよびてと云を思へる
小かくて有る物をほごまきえし露のかあしき外あ
ら外あらましも悲したまうらのうちこそ思
いやはあまも有るも思ひ合さるれを飛ぶ然る小江戸
に教子ちれ己が若きやどはで在し人誰も大人の
は御心づしを受継て人小示せざるハ無く唯それ詠歌小勝
に給ふ協事のみを稱へ申はて口をし死中小母村田春海

は童子あてし程よて教を受し人ある小往年いぢこれ
眞國と云し者と諍ひて贈れる物なり。懸居大人も歌をこそ
第一は爲らあま。上代の道あど云ことは常小も都小云
れざてし我宣長いと彼大人をし神世の道を専と教ら
まし如く云ふを憎き事ぞと詈れ協事もあてしは最も拙
記事小ぢては協。但しあの諍ひの起りまよ互小習り概と
せる物ども有るを見て知れし其論はおきてて春海が遺りは
を云ふも更あれど然る諍ひをしも起せる事のもとは眞
國がたやれしあら然所爲より起れり其頃己を春海も
眞國も親加ゆし故ま多く其由来を知れゆしうば眞國
も意見せる事もありしを用ひざりしうば其事よりゆて
眞國と交り絶する事あり其由あま云むハ事長け
れバ云む別は然る上小舉る協玉勝間記されし賀
記せる物あり

茂翁の。我が師小諭されし御語などを。師は私言と云はく。言ひもまほし。然れど大人の自加ら。書著されし諸書。右は意ば言を言まし語も。數ふる暇あらば。今それ一二を云む。よ。はば新學び。後世に人万葉ハ歌あり。歌を女のもて遊ぶ。戯れの事ぞと。思ひ誤るはく。小。古歌を心得ば。古書を知らば。あはじは。漢文を見て。あは。は神代の事を云むと。はる。は。か。し。人。多。し。と。さ。る。其。云。ふ。こ。を。虚。理。お。し。て。皇朝の古道小叶子。依を摠てれし。此を其頃まで。盛りお世者ら。は。説。弘。む。る。趣。を。云。れ。し。り。て。荷。田。大。人。の。上。言。ふ。詠。哥。史。道。敗。關。大。雅。史。風。何。能。奮。今。史。談。神。道。者。是。皆。陰。陽。五。行。家。史。説。世。史。講。詠。哥。者。大。率。四。頓。四。教。伎。史。解。非。唐。宋。諸。儒。史。糟。粕。則。胎。金。兩。部。史。餘。瀝。非。鑿。空。鑽。穴。史。妄。説。則。無。證。不。稽。史。私。

言。曰。秘。曰。訣。古。賢。史。真。傳。何。有。或。蘊。或。奧。今。人。史。偽。造。是。多。云。く。と。あ。る。お。同。じ。ま。は。古。は。歌。を。學。び。て。古。風。の。歌。を。よ。み。次。小。古。は。文。を。學。び。て。古。風。の。文。は。於。ら。絲。次。小。古。事。記。を。能。く。讀。み。次。日本紀を。よく。讀。み。續。日本紀。よ。り。下。御。代。於。ぎ。は。史。ら。を。讀。み。式。儀。式。西。宮。北。山。江。次。第。あ。ど。或。は。諸。の。記。録。を。も。よ。み。假。名。小。書。る。物。を。も。見。て。古。事。古。言。は。殘。れ。る。茂。取。り。古。は。琴。ふ。え。衣。は。類。ハ。器。あ。ど。は。事。を。も。考。究。其。外。く。は。く。は。事。と。も。は。右。の。史。ら。茂。見。思。ふ。間。も。知。る。は。し。か。ぬ。皇。朝。の。古。を。盡。し。て。後。小。神。代。の。事。を。バ。伺。ひ。於。ら。し。然。て。こ。ろ。天。地。を。合。ひ。て。御。代。を。治。免。ま。せ。し。古。は。神。皇。の。道。を。も。知。得。べ。き。あ。れ。お。も。上。小。奉。さ。る。我。が。師。へ。の。教。語。の。意。も。は。ら。同。じ。趣。あ。り。

はらふ万葉考は、大考の第一條。上代は天皇命、内は皇神を崇へ給ひ、外は嚴き大御稜威をふり起し坐て、伏をぬる。國字平らげ、千早ふる人をやはし坐し、天地小合ひも、遠志る。死道をぬし給ひ、治免給比。外は武を内りまると云々、他國の理屈ぶその議あり、皇朝を然らば、常小武をわたりやう。内もふれ狭き事をば、見し直し、聞し直し、坐しうば、青人草も、皇神を敬ひて、心汚き隈をおろし、天皇を畏み、身小お加せる罪もぬく。況て臣等ハ、海もろむ水漬らば、祢山もろば、草生らば、祢大君は邊より死なぬ。比をうハ有じと言立て、雄く志き眞心をもて仕奉れくむ。吾の天皇は御食

國を天と長く、地と平けく、聞しをせ、縁故をも、委曲小思ひ得たべし。此を思ふは、皇御國の上代は事茂、志を通らふ。わざは、古た世の歌字知るよ。先ある物を無りけり。よて、常は哥を物せられしハ、古道を學び至るべき。梯をせらまし御心を、察明知られとめ、かく、家を己の若うとけるを、ぞ、万葉は、古た歌ぞとれみ思ひ、古歌もて、古た意を知、あむ事としも思ひ、あらば、古今歌集、あるハ物語ふみら、茂、釋記さむ事を、わざを爲せしハ、今しも省れば、其歌もふみ母、世降ちて、手弱女は、少女内ひと、事ある有。益荒雄の壯士さびせる、正くて、眞盛ありし、古のい、の志御代小合は、あむ有、此事を、知足はしてよ。唯万葉

大そ有れと思ひ麻も内綿も。阿まこ此夏冬成立加牙抄。
百足らば六十ぢれ齡小して釋記しぬ。此文よ若き程の心
荷田大人よりいまだ從ひ給ハさし程の事あるべし其は
荷田大人の教へた。上り記せる如く。まが万葉集の哥を明
らめて後又神代の古道あを尋ねく。はまら雄心をたふ
し立ち高き代を慕へ。とふ教ありしう。バある。然れむ此を
彼大人の心とせられし意。はま第二條小。上り大御代
語あること云はくも更なる。はまは天津神王此道のま小く。天皇命いぬの雄く志た字
表とし給ひ臣等ハ武く直た字專とあて。治免給ひ仕牙奉
りける成。中於代より言ちやぐ國人の作れる。細ある政事
をたなく取り唱りて。臣等ハも文官武官とわくらへ。文を
貴く武を卑しとせしよとぞ。吾が皇神此道たとろりて。人

此心ひふるれらば成ふも。然りて也以來。まはての世
の手多すも古をはあま。背小千箭の鞆を負とも。雄く志ま
心成忘れ。面小八ぢり髭を生れ。手弱きまを此葉を歌
ふ事と成ふしは。宜しからぬ事ある。萬葉集の哥
を釈れし物。ハ論無れど。淡く思ふ。大人の学問も。万葉
をむ。祢と誦味りて。古意を得られぬ。小依て。右のごと。太
き心の動くまじく成。給へる。あはれ。其大考ハしも。あま学
ひ得て。既よこが物とあはれ。大倭心の思ふま小く。言ひ
連。みられし物。あま。本文ある。哥此解ハ。却りて也。此大考
の條くの引證。は釈れし如く。あま有る。達人の学ハ。多く
然る物。小し有る。今の古学者れど。然。はま祝詞考此序小。
係。謂を。ハ。抄も。得知らで。ぞ有る。はま祝詞考此序小。
數の祝詞。此文を。次く。小論ひて。此等を加。れ。見。む。彼
れ他國。ふ。り。小。效。牙。り。し。也。漸く。小。物。失。は。れ。來。し。事。を。知。り。

此の言は國の古に綾ふれむらし有し心を知れし。かく
知らば。凡て古乃ふみ。古の歌は貴たをも思ひ別き。君が代
に古ふと布。神代に道をも伺ひ得る。小至らばし。故畏
あがら。此ふを祝詞の意まか。あは解て。今よ古に姿の
文を抄ぐ。習ひ。古乃奥所を求むる。山口とせむを爲る。ふ
に。有ゆ。あは是ら。此外。哥意考。文意考。国意考。冠辞考。れ
知る。かくて。教牙を受る人。小む。皆うけ。以詞を書しめ。給
牙依が。其文。賀茂。宇志。迺。教賜。倍。樓。皇御國。迺。上代。乃。道。表
已。痛願。斯。奴。倍。里。故名。簿。乎。進。良。世。其。道。尔。赴。比。奴。伊。摩。由
後。教。賜。敬。留。言。遂。尔。達。里。互。許。流。時。尔。志。毛。有。受。波。安。駄。志。人

尔私言勢自且宇志尔對比互章耶無久異也伎心哀思波自。
都互此鳥計非尔違波婆言麻久暮恐伎天津神國津神多知。
知志食奈毛穴賢と書されぬ。の。一。卷。の。中。小。我。が。師。本。居。
大人を始。小野。古道。河津。長夫。内山。眞龍。栗田。土滿。藤原。宇
万伎。楫取。夷彦。加藤。千蔭。村田。春郷。同。春海。あ。と。其。餘。の。人。々
此。進。れ。る。誓。詞。も。い。と。多。く。有。し。を。濱。臣。が。家。ま。て。見。と。る。小。
詞。を。こ。の。同。じ。事。も。有。る。己。が。教。子。と。も。小。書。け。る。誓。詞
ハ。こ。を。取。舍。し。上。小。引。く。文。也。も。及。た。此。誓。詞。の。文。を。見。て。大
人。の。詠。歌。を。教。牙。古。語。を。釋。こ。と。戎。導。う。れ。し。も。皆。神。世。の。道
小。學。び。入。し。む。る。梯。小。て。有。了。し。事。を。辨。ふ。は。し。然。る。小。春。海
の。徒。か。依。誓。詞。を。ち。牙。小。進。ゆ。移。く。生。れ。り。た。上。世。れ。道
形。也。云。ふ。は。縣。居。大。人。の。意。れ。ら。安。漢。國。聖。人。の。道。を。お。き。て。

眞の道^{マコト}を何る事^{コト}れしと^{コト}言^{コト}て立^{タテ}てぞ終^{ハタ}りけり。是^{コト}をもて
も皆それ漢意を心を志^{コト}て。中^{ナカ}小^コを。縣居の道統^{コト}ふと^{コト}稱^{コト}をる
倫^{コト}ひも有^{コト}あれど。一人も彼^{コト}、大人の眞旨^{コト}を得^{コト}るは有^{コト}こを
ふし。然^{コト}もど春海^{コト}が家集^{コト}ふと^{コト}見る。神祇^{コト}の哥^{コト}小^{コト}。天地^{コト}の
神^{コト}やうさめし万代^{コト}またる。動^{コト}るぬ国の御^{コト}はしら。百^{コト}千^{コト}
の世^{コト}も動^{コト}りじ天地^{コト}の神^{コト}は固^{コト}免^{コト}し大和^{コト}しま結^{コト}む。二神^{コト}は
繪^{コト}ふ。千^{コト}万^{コト}づの世^{コト}も動^{コト}りじふと神^{コト}は。ゆきめく尾^{コト}あ。天
此^{コト}御柱^{コト}あ。と趣^{コト}向^{コト}む。こふ同じあ。から。適^{コト}ふ。おれ。三首^{コト}あり。然
まど。此^{コト}徒^{コト}のよみ。哥^{コト}ハ。心^{コト}もれ。き。例^{コト}のを。そ。哥^{コト}あれ。む。彼^{コト}
が。序^{コト}よ。記^{コト}せ。依^{コト}趣^{コト}き。ぞ。彼^{コト}が。眞^{コト}心^{コト}り。ハ。有^{コト}り。る。憐^{コト}む。へし。儲^{コト}
縣居^{コト}大人^{コト}は。教^{コト}子^{コト}も。百^{コト}をも。て。計^{コト}ふる。ば。う。了^{コト}。多^{コト}か。め。し。を。聞
ゆる。中^{コト}小^{コト}。我^{コト}が。師^{コト}の。大人^{コト}は。み。ぞ。抜^{コト}出^{コト}て。そ。れ。古^{コト}道^{コト}學^{コト}の。大^{コト}義^{コト}
を。貫^{コト}ぬ。き。得^{コト}られ。し。哉^{コト}。餘^{コト}は。大^{コト}の。と。歌^{コト}作^{コト}り。と。ぞ。成^{コト}。と。了^{コト}け
依^{コト}。是^{コト}よ。就^{コト}て。思^{コト}ふ。よ。漢^{コト}籍^{コト}千^{コト}百^{コト}年^{コト}眼^{コト}といふ。物^{コト}よ。王^{コト}義^{コト}止^{コト}が。經
濟^{コト}の。識^{コト}慮^{コト}よ。精^{コト}深^{コト}あり。し。事^{コト}共^{コト}を。記^{コト}して。然^{コト}る。大^{コト}才^{コト}も。字^{コト}を

書く。わが。の。名^{コト}高^{コト}き。よ。蓋^{コト}て。れ。て。世^{コト}よ。知^{コト}られ。ざ。る。事^{コト}を。論^{コト}へ
る。ハ。実^{コト}然^{コト}る。事^{コト}あり。其^{コト}を。縣居^{コト}大人^{コト}の。実^{コト}小^{コト}大人^{コト}と。依^{コト}所以^{コト}を。
古^{コト}道^{コト}の。意^{コト}を。説^{コト}出^{コト}られ。し。功^{コト}ある。を。其^{コト}事^{コト}を。稱^{コト}せ。依^{コト}を。鈴屋^{コト}大
人^{コト}は。こ。有^{コト}り。て。餘^{コト}は。ハ。こ。あ。哥^{コト}は。能^{コト}く。詠^{コト}れ。し。字^{コト}以^{コト}て。稱^{コト}へ。申
せ。り。詠^{コト}哥^{コト}は。上^{コト}手^{コト}あり。し。と。彼^{コト}大人^{コト}小^{コト}と。了^{コト}て。ハ。何^{コト}ば。う。め。の
事^{コト}小^{コト}も。非^{コト}ざる。を。不^{コト}肖^{コト}れる。徒^{コト}の。大^{コト}を。識^{コト}ら。ず。小^{コト}を。知^{コト}る。ふ。ら
ひ。と。と。云^{コト}あ。が。ら。大人^{コト}の。哥^{コト}よ。名^{コト}高^{コト}き。ハ。いと。惜^{コト}き。こ。せ。れ。り。
然^{コト}る。小^{コト}鈴屋^{コト}翁^{コト}の。哥^{コト}ハ。も。難^{コト}き。べ。き。節^{コト}こそ。無^{コト}れ。れ。面^{コト}白^{コト}ら
ば。也^{コト}。吾^{コト}さ。ず。よ。思^{コト}ハ。世^{コト}は。哥^{コト}人^{コト}ら。も。然^{コト}を。云^{コト}あ。せ。と。学^{コト}問^{コト}の。力^{コト}
小^{コト}於^{コト}て。を。適^{コト}小^{コト}吹^{コト}毛^{コト}乃^{コト}難^{コト}を。云^{コト}は。こ。よ。て。凡^{コト}て。も。舌^{コト}を。巻^{コト}て。ぞ
有^{コト}める。是^{コト}を。思^{コト}へ。む。縣居^{コト}翁^{コト}の。哥^{コト}は。面^{コト}白^{コト}きは。此^{コト}翁^{コト}の。幸^{コト}とも。云^{コト}べ。く
云^{コト}は。く。鈴屋^{コト}翁^{コト}は。哥^{コト}の。面^{コト}白^{コト}から。ぬ。を。此^{コト}翁^{コト}の。幸^{コト}とも。云^{コト}べ。く
や。其^{コト}を。大^{コト}字^{コト}も。て。稱^{コト}せ。ら。ゆ。と。小^{コト}を。も。ち。て。鈴屋^{コト}大人^{コト}は。傳
は。母^{コト}自^{コト}加^{コト}ら。記^{コト}さ。せ。し。家^{コト}は。む。ら。し。物^{コト}語^{コト}ま。と。本^{コト}居^{コト}家^{コト}譜^{コト}及^{コト}ハ
大^{コト}平^{コト}は。書^{コト}と。依^{コト}畧^{コト}傳^{コト}ま。と。己^{コト}が。聞^{コト}及^{コト}べ。る。事^{コト}ども。哉^{コト}も。取^{コト}合^{コト}せ
て。そ。の。大^{コト}畧^{コト}を。記^{コト}さ。む。小^{コト}桓^{コト}武^{コト}天^{コト}皇^{コト}よ。と。出^{コト}る。依^{コト}平^{コト}朝^{コト}臣^{コト}は。一

流りて其遠祖も池大納言頼盛卿六世此後小て本居縣判官平建郷とふむ云ける。それ曾孫左馬助直武主よ。世く伊勢國司北畠殿の家小屬ツキて壹志郡阿坂アサカにれむ住れり。北畠殿も代々多氣郡大河内タケノに住し給へる故に多氣御所と稱す。吉野大宮に忠り仕奉り給ひし。北畠准后親房卿此後裔よて名家ある事。皆人の知れるが如し。其後大人の六世に祖を本居惣助武連と云ふ。武連小二子あり。長を正右衛門延連といひ。次を左兵衛武秀と云ふ。是大人に五世の祖あり。蒲生宰相氏郷卿小仕りて。陸奥の會津に徙り。天正十九年小。南部九戸といふ所の戦ひに。敵あはれ討とり。武に振舞ありて。軍の中小失られぬとぞ。それ兄延連終しの末も後まぶ大阿坂村に住みて地士に如くして今も在り

と武秀終し討死せし頃。それ妻室懷妊小て在り。流りて伊勢小歸りて。兄延連に家小至らば。知るよしありて。小津村に源右衛門と云ふ民の家ソケに至り著て。此家よる男子を誕生せり。源右衛門それ後。小津村より松坂小移りて住居し。小津を以て家の名を以。是より小津と名のる者。松坂も源右衛門の家。その本ありとぞ。斯て右の男子成長して。小津七右衛門某と云ふ。小津源右衛門に長女を娶り。同じ里小別子住せり。是大人に四世の祖あり。慶安元年の二月五十七ハの齡よて没れりとぞ。其子を三郎右衛門某といふ。其子茂三四右衛門定治と云ふ。其子茂三四右衛門定利と云ふ。是大人に父主あり。茂此系の季き趣ハ。

家の昔も此語は、四世此間かく民小て在しう。江戸小出
於きて見るべし。家も富榮えてぞ在り。然る小定利也。三
十五六歳まゝ。實子亦加てしう。大和國吉野は齋き奉る。
水分神社より小申られける小。其驗ありて。享保十五年五
月七日小。松坂の本町此家にて。大人は生れ出らまけり。童
名を富止助と申せり。家のむらし物語り。大和國吉野の水
與へて守り給ふ神ありと申れり。子守神と申て。子を
し男子を得し給は。其兒十三小あり。此神は動りも
詣で。加て申し奉らむ。と云ふ願をめて給へり。程あ
く母のはらみ給ひて。享保十五年庚戌の五月七日の夜子
の時。宣長を生給ひ。童名を富止助といふ。母か自ら。同
里ある。村田孫兵衛某の女ありと記し。其十三歳小あら。志
志時。父主をてよ。あき後れり。母刀自の取。まうあ
ひて。寛保二年の七月小。水分神社より詣。あめられ。る事見

え。其後四十三歳のとき。安永元年三月小も。吉野小物して。
水分神社より詣。給へり。其時の紀行を。菅笠日記と云ふ。ま
七十歳のとき。寛政十一年二月小。紀伊國より参りて。帰るさ
小。吉野小物し給へり。其時のう。吉野百首あり。鈴屋集の。
水分神社より。詠給へり。哥ども多る。中。小。利く。海
己の神。此ちむひの無りせむ。あれの。向。身。ハ。生。れ。こ。免。や
も。水。分。の。山。を。し。見。れ。む。か。ま。く。小。わ。が。世。の。む。ら。し。思。ふ
も。る。も。命。に。て。三。ふ。び。ま。あ。来。て。を。政。が。む。も。此。水。分。此
神のみ。と。ま。を。水。分。の。神。れ。さ。た。む。ふ。命。あ。ら。ば。
又。う。予。に。こ。む。み。よ。し。野。の。山。あ。ど。も。見。え。と。り。元。文。五。年。閏
七月小。父。怒。し。身。退。ら。れ。ぬ。大人。十一。歳。の時。あ。り。此。年。小。字
を。彌。四。郎。と。改。免。ら。れ。ぬ。十二。歳。此。時。小。名。を。榮。貞。と。於。け。給。ひ。
十七歳の頃。尋常風の歌を。み。始。免。給。へ。り。此。頃。まで
習ひ。給。へ。る。事。ど。も。八。歳。此。時。小。西。村。某。を。師。と。志。て。手。習。ひ
を。始。め。給。ひ。十二。歳。の。時。小。斎。藤。松。菊。了。從。ひ。て。手。習。ひ。し。岸
江。上。仲。了。於。きて。四。書。を。讀。み。ま。う。猿。樂。の。謠。曲。を。あ。ら。此。十
五。歳。の。十一。月。小。元。服。し。給。ひ。延。享。三。年。十七。歳。の。頃。より。哥

をよみ始め、其年の七月より、濱田瑞雪を師とあて、射術を
学び、まゝ某小茶湯此式をとひ、既正住院に就き、五經を
読畢し、かくて寶曆二年、二十三歳の三月、京小上りて、堀
景山小從ひ、儒學をし、武川幸順法眼に弟子とあて、醫
術を末れ比給ふ。其は母刀自れ心於て也しとぞ。其は家
の語す、母刀自の事、み於ら家の事をはうらひ給ふ、
跡於ぐ弥四郎何たあひの筋、うをく、只書ををむ事、
れと好免む、今よりのち、商人とあるとも事、うじ、讀て其
心於うひせ、て有、傍うら、然れむ弥四郎ハ、京は上りて
學問をし、医小あらむ、こを善うら、とぞ、お、し、定給へり
ゆる、云くとあり、景山は、堀頼助といひ、先祖、堀正意と云
ひしハ、藤原惺窩先生の弟子よ、景山まで世々、安藝侯の
儒士あり、幸順法眼も、南山先生を稱して、其業大、行をれ、
後桃園、天皇の親王と申せし御不、は、て、此、時、よ、也、小、津、と、い
どより、典藥よて仕へ奉れりとぞ、は、て、此、時、よ、也、小、津、と、い
ふ稱をや、て、昔、比、本、居、小、復、し、給、ひ、同、三、年、九、月、子、彌、四、郎

を健藏と改免。同五年三月、小健藏を改めて、春庵と號し、名
茂宣長を改米給ふ。春をまゝと辭と、此、不、ぞ、比、皇、朝、の、學、び、比
まぢらハ、玉が於ま櫻の落葉に卷小見えぬ也。そは己が物字
と云ふ條、本のれ幼、う、し、程、よ、也、書、を、よ、む、事、を、あ、む、万
於、よ、ゆ、も、面、あ、ろ、く、思、ひ、て、を、み、ぬ、る、然、る、を、は、か、く、し、く、
師、小、於、き、て、わ、ぎ、と、學、問、に、と、小、も、非、免、何、と、心、ぎ、を、事、も、あ
く、その筋と定免さる方もあくて、只、から、の、條、に、く、内、く、
比、書、を、あ、る、小、ま、う、せ、得、る、小、あ、う、せ、て、占、き、近、き、を、も、云、比、
何、く、と、と、讀、り、る、程、了、十、七、八、あ、う、し、頃、より、哥、よ、ほ、し、
く、思、ふ、心、い、で、來、て、讀、始、め、る、を、其、を、師、小、從、ひ、て、學、べ
る、小、も、非、免、人、子、見、ま、る、事、あ、と、も、せ、に、唯、ひ、と、り、詠、出、る、ば
う、正、形、ゆ、き、集、ど、も、古、き、近、き、これ、と、見、て、於、の、如、く
今、世、の、よ、み、風、あ、ゆ、た、斯、て、二、は、あ、ま、也、也、し、不、ぞ、學、問、あ
小、と、て、京、了、あ、む、上、り、る、然、後、ハ、十、一、の、年、父、小、ね、く、れ、し
し、程、小、も、母、あ、て、し、人、れ、お、も、む、け、よ、て、医、比、か、さ、を、習、比、ま
ぬ、その爲、了、世、の、常、比、儒、學、を、も、せ、む、を、あ、り、也、然、て、京

小在、いふど小百人一首の改觀抄を人子加めて見て、始て契沖堂のいひし人此説を志す。その世小卓れとる程をも知り、此人の著しとるも此餘材抄、勢語臆断などを始め、其外も次く小求免出ても漸く見ゆる程了、志修て哥學びの志の善悪まけぢめをも漸く辨へさせ置けり。然るに、小今世の哥をみれば思ふに、大つ心叶も、其哥のさまもたうしうらな所、思けれど、當時同じ心ある友ハ無ゆけれど、唯よの人ホこ、かしたの會れども、出まじらひ、於て詠ありきけり。而して人れをむふゆハ、己が心ハ、背々、林む、人む難免を有る。今この世れふ、己も云くと記されとる、小て知べし。同七年、二十八歳の七月、小京よ、松坂了歸。是よ、小兒科の醫業をもて、家此産とは志す。寶曆十一年、三十二歳、時よ。縣居大人乃教子よあて給ひ。もはら皇朝の學び、心をいきて、晝夜といは、勤み給へ。己ぞ。縣居大人。この時六十五歳。此も上り引とる。玉

が初まの文れ、おき、小国子帰り、とてし年ごろ。江戸よ、上れ、てし人の近支頃出とり、冠辞考といふ物を見せ、ある、ぞ。縣居大人の御名をも始めて知り、斯て其ふ、始、餘、小一、わとゆ見し、ハ、更、了、思ひも、うけ、忠、事のみ、し、て、餘、り、事と、わ、く、異、志、あ、き、や、う、小、覺、え、て、更、小、信、じ、る、心、を、有、さ、て、し、ら、ど、猶、あ、る、や、う、有、べ、し、と、思、ひ、立、ち、へ、て、今、一、と、出、見、れ、む、ま、ま、く、了、ハ、實、子、然、も、や、と、覺、也、る、ふ、し、く、も、出、來、り、ま、ま、又、立、ち、了、見、る、小、い、と、げ、小、と、覺、也、る、こ、と、多、く、あ、ゆ、て、見、依、さ、び、小、信、を、依、心、の、出、來、れ、終、古、お、己、の、心、こ、を、げ、の、實、小、さ、る、事、を、悟、り、然、か、く、て、後、了、思、ひ、く、ら、ぶ、れ、む、彼、契、沖、が、万、葉、の、説、を、お、未、し、き、説、の、ミ、多、く、ゆ、け、る、己、が、哥、學、び、の、有、し、や、う、大、う、さ、か、く、れ、如、く、あ、り、き、備、ま、と、道、の、學、び、を、ま、づ、始、免、よ、り、神、書、と、い、ふ、を、ぢ、れ、物、古、ま、近、き、ま、れ、や、う、ま、や、と、読、む、を、二、十、は、う、了、れ、程、よ、り、わ、た、て、心、ざ、し、有、し、ら、ど、取、あ、る、を、二、十、は、う、了、れ、程、よ、り、わ、京、子、上、り、て、ハ、わ、ざ、と、も、學、む、と、志、を、進、め、然、る、を、加、の、契、沖、が、哥、ふ、み、の、説、を、准、へ、て、皇、國、の、古、れ、甚、く、違、へ、ゆ、と、早、く、悟、り、道、者、と、い、ふ、者、れ、説、く、趣、き、は、之、れ、甚、く、違、へ、ゆ、と、早、く、悟、り、ぬ、れ、む、師、と、頼、む、べ、き、人、も、無、り、し、程、よ、り、吾、い、の、で、古、の、ま、こ、との、旨、を、考、了、出、む、と、思、ふ、心、ざ、し、深、う、了、し、小、合、せ、て、加、の

むおは。必しも師の説小違ふとて勿憚る。とあむ教子ら
まじ。此をいせ貴死をしりて。我が師に世は卓れ給へば
一扱あてと有候。荷田翁は常言小學の道ハ。天下の大
路れまば己ひせと立らむが如く誇るはうらば。學ぶ人も
師の教あゆとて。強は泥多べからば。せを教子あれしを。賀茂
翁はうけ扱ぎる。再傳へ給ひし教子あり。荷田翁のそれ常
美が序は見えて。既り。是をもて。大人も其意を守て。玉が
上おも引出とりき。扱まる。我が教子小誠老たくやう。せて吾小從ひる物學は
む徒のらも。我が後了。はと好き考子け出來らむらむらハ。必
わが説了れ泥こそ。我が何した故をいひて。とた考子を弘

免ふ。摠て己が人を教ふるは。道を明ら小せむとれまは加
おもかくおも道字明ら小せむぞ。吾採用ふゆは有々候。
道を思ハて徒了吾を尊はむハ。吾が心り非ざるぞかし。と
言遺れあり。然れむ此。教へと。古き祝詞。古き哥あどを讀と
至れと云ふ教へとハ。我が古学の道統の教とも称をべく
あむ。然るを今。世は。鈴屋の流れふら。古学は徒あど。大人
の。師説字多く論ひ直されとるを。憎み誦るも。はて明和元
年三十五歳の時よ。古事記傳の稿を始め給ひ。同八年四
十二歳に時を。直毘。聖の稿も既小成れ。其ハ備前。殿人
常山と云し人の。文會雜記と云物子。伊勢。松坂。本居宣長。古
事記傳十五卷を著す。此。中首の卷を闕る小。聖人の道。吾。日
本の道と異なるは論あり。日本紀を。全く漢字は潤色しと
る故。古事記字第一とにるあり。と有り。此。禊記を。其。ころ記

ある物あれむあり。はて古事記傳を。天明六年。五十七歳の
時。小上巻の傳成り。寛政四年十二月。六十三歳の時。中巻
の傳成り。同十年。六十九歳の時。下巻の傳成り。同十一年
の九月十三夜。其、よろあひの會し給ふ。寛政は始より。
板了彫はし免て。次く彫成り。文政五年。天明元年正月
まで三十年餘り。彫して。彫刻これ成。畢なり。天明元年正月
十六日。小縣居翁の十三回追慕の祭。歌の會志給ふ。其
時の歌集を。手向草と云ふ。そが中。小大人は哥。小眞鴨よ。か
うは人のうれげ。玉の眞白玉。あやふふとみ久方の。あ
る見。如く仰ぎ見し。その白玉のひより。そや。あら玉は月
が來ふれば。今日も其、月日を。新玉は。やしも。六とし。小
車は。免ぐ。正來。經も。き。その。せし。小。加。牙。正。來。牙。也。く。あ。や。り
あや。や。貴。く。有。る。志。ら。玉。也。同二年の頃。よ。家。は。名。を。鈴
光。り。を。や。け。し。其。光。也。や。屋。号。け。給。ふ。あ。を。鈴。屋。集。よ。天。明。二。年。の。冬。家。の。う。ち。小。高
屋。号。を。集。へ。て。始。め。て。哥。の。四。居。し。る。年。の。三。月。九。日。日。友
長。哥。小。少。如。ら。が。ま。手。小。ま。た。も。於。は。く。鈴。の。五。十。鈴。の。ま。り。

の鈴の屋を云くと詠て。あ。牙。の。詞。書。よ。鈴。屋。と。と。三。十
六。此。小。鈴。を。赤。き。緒。不。燃。き。あ。れ。て。柱。あ。ど。り。け。置。て。物。む
於。り。し。き。を。正。く。引。お。し。て。其。か。音。を。き。け。む。心。ち。も。な。が
ま。が。あ。く。思。布。也。其。鈴。の。哥。を。床。の。べ。小。我。が。か。け。て。古。志。ぬ
ぶ。鈴。が。終。の。さ。や。く。か。く。る。此。屋。寛。政。二。年。六。十。一。り。れ。也
の。名。小。も。れ。布。せ。於。り。し。也。有。り。給。ふ。八。月。糸。み。於。ら。像。を。う。於。し。畫。た。て。歌。よ。み。て。添。給。き。
其。歌。を。師。木。嶋。の。倭。心。字。人。と。は。朝。日。小。よ。ち。ふ。山。櫻。花。と
ぬ。む。有。る。像。此。を。子。孫。に。末。小。傳。牙。と。家。不。遺。され。し。あ。也。
後。了。教。子。と。ち。れ。其。像。を。得。ま。わ。し。が。也。て。画。工。了。写。さ。し。免
む。と。請。ま。を。了。了。法。橋。宮。脇。有。慶。と。い。ひ。し。画。工。の。写。せ。像。が。
大人。の。御。心。を。叶。ひ。て。此。が。写。せ。る。像。を。其。齒。は。數。布。ど。六。十
一。枚。了。の。れ。哥。を。か。き。給。ひ。し。と。ぞ。其。有。慶。が。身。ま。加。り。て。後
を。尾。張。の。吉。川。義。信。と。い。は。る。が。写。せ。る。を。免。で。給。ひ。し。と。聞
あ。ゆ。已。も。そ。れ。六。十。一。枚。の。中。を。一。幅。得。り。ま。し。義。信。小。あ
を。ら。牙。て。画。し。抑。荷。田。翁。に。立。ら。れ。し。意。は。牙。也。書。て。ふ。題。よ
免。と。像。も。有。也。抑。荷。田。翁。に。立。ら。れ。し。意。は。牙。也。書。て。ふ。題。よ

て。ふみ分けよ倭小はあらぬ漢鳥也。あと茂見跡のみ人れ
道うはを詠まれ。岡部翁の意は。新室布死よ集るる教子と
ち小示以とて。飛驒よくみちえて作れる真木柱。よてし心
は動のち死まし。を詠れよ。此、次小。鈴屋翁の今れ歌を誦
味ひて。次く小古。學れ道の。調ひもて來し有さほをも辨ふ
べし。己が持する荷田。岡部二大人の御像を。春庭也し。大平
翁しよ。古史成文れ成れるを。贈れるとろおびよ給
牙るお味が。ふみ分けとの哥。飛驒よくみみの哥を。其集り
見出て。書て賜へ。実小も此。二首を。御像れ上よ記さむ。り
いと宜しき。ちて寛政六年。六十五歳小ふよ給ふ十月小。
紀伊殿よ召され。若山了參。給ひ。御前よて大祓詞。古今
集。序ふとを聞え未茂し。はと詠歌大概を本文小して。歌道

を説き聞え參らせ給ふ。此、度小。奥醫師の列小召加。牙られ
て。俸茂賜を。はと御紋の服小。種くれ祿を。ち牙よ賜は
ふ。十二月小家よ歸り給ふ。此、時よみ給へる歌。我をもと
御衣よばりぬ。ちき草也。三於葉の葵の。何やれ御けし茂。此、
時の日記を。死みの免ぐみ。とて一卷あり。はとの年れ二月
小。字を中衛と改免給ふ。齋藤彦麻呂が書ある大人の傳三
衛。ナカエセ飯名を添。するを非あり。あて
字音小とあふる御名ありとは知。さるりや。同じ死十二年
小。伊勢國飯高郡。山室れ妙樂寺れ山小。加糸て墓所を。點て。
標の石を建置給へ。其、時よみ給。牙る哥二首あり。山むろ
れぬ花よ。おを見免。今もゆは。ちるお陀身を。れが。ら
千世の。まみ。のを求め得。おま。ば。此時。を。七十一歳。り。あ。給

享和元年。七十二歳小あて給ふ四月。人々此請申せる
小依りて。四月。旅立て京よ上り。四條鳥丸の東に寓り給
ひし時。諸國より聞傳へて。學問に参り合はれも多し。又
閑院の宮。妙法院に宮あどすも召れて。歌よみて奉られ。日
野殿。園殿。芝山殿。中山殿。富小路殿。萩原殿あどすも参り給
ひて。古學此事ども申し給へる中。小も。中山前。大納言。愛親
卿に御館より。延喜式に祝詞。卷を口説せられし時。殊小
やぶとれき。雲上方。小も。多く聽聞おとし坐り。其御方々
宰相。中將。忠頼卿。花山院。右大將。愛徳卿。園。大納言。基理卿。東
園侍。從。基仲朝臣。大炊御門。中納言。經久卿。河。齋。宰相。実祐卿。
今。城。右。中。將。定。成。朝。臣。三。條。大。納。言。公。修。卿。野。宮。左。少。將。定。業。
朝臣。同侍。從。定。靜。朝。臣。花園殿。あども御坐り。その會日。

四月廿九日。五月四日。十五日。十八日。廿三日。廿六日。ふりき。
あ。此。時。に。聽。聞。あ。て。し。人。々。此。名。ども。玉。此。名。お。き。と。云。ふ
物。に。委。く。は。り。四。條。に。寓。居。り。て。万。葉。集。祝。詞。式。源。氏。物。語。を
見。え。と。て。は。り。四。條。に。寓。居。り。て。万。葉。集。祝。詞。式。源。氏。物。語。を
ぞ。講。説。せ。ら。れ。し。小。も。入。來。は。り。て。聽。聞。あ。て。し。君。と。ち。も。多
く。坐。は。り。し。其。御。方。も。富。小。路。殿。日。野。中。宮。權。大。進。資。愛。朝
臣。錦。小。路。三。位。賴。理。卿。外。山。三。位。光。実。卿。倉。橋。中
務。權。少。輔。泰。行。朝。臣。綾。小。路。中。納。言。俊。資。卿。あ。ど。雲。上。方。小。も。大
ど。あ。り。地。下。の。聽。衆。も。今。計。ふ。る。暇。あ。ら。ば。雲。上。方。小。も。大
人。に。學。問。を。感。き。お。え。給。ひ。し。事。は。日。野。一。位。資。枝。卿。の。御
館。に。参。ら。れ。し。時。小。立。た。れ。ば。わ。ら。け。浦。松。高。き。枝。も。か。り。む
言。は。も。波。の。下。草。と。て。奉。ら。ま。け。る。御。返。し。小。宣。長。と。浪。れ
下。草。と。と。み。て。贈。ら。れ。し。う。箋。と。詞。を。給。ひ。て。和。歌。の。浦
や。千。代。ま。た。蔭。の。み。る。ふ。ら。を。誰。は。波。の。下。草。と。見。む。ま。い

同卿の令孫資愛卿。四條の寓居に訪ひおはして和歌のう
る行方をあやむる海士をぶ糸。今と君残りちと頼まむ。
を宣ひ。おれ時大人の御返しよ。君におかくせはましましやは
埴生れをやのちむしろよ。日野のわくおれ入まらむとは。芝山宮内、大輔殿はじえて入
來はして。宿とひて君におあふらふ嬉しきは。雲をまよ月哉
見るあちせ。悪れき姿はいまもいせ嶋の和歌に松原
みゆき嬉しも。お有。大人の御り牙し。おはまはまはる君が
清き。年を牙て君を何ひ見し嬉し。旅はれとよの露も
し。お老木もけふをわらぬ松原。富小路貞直卿に。始先
て訪ひ來ませる時。山城のやはおかぢまて伊勢に海の。
玉に光。お吾も何えばや。を宣ひ。大人の御か牙しよ。いせに
海士に身をおも糸ども山

城のとはお仰が。大人に國小歸に給ふ時。同卿の馬に餞
む君が光を。大人に國小歸に給ふ時。同卿の馬に餞
を給ふ。送本居大人、歸伊勢國、作詞一首。並短詞とて。神風
に伊勢の國ある松坂の。またのひ有て内日さ。都におの
に草はくえ。旅宿して奈良に葉の名におふ宮に古こそ
れ。万のさと葉朝よひ。小説談らふと梓弓。おと小聞。お刺
竹に。大宮人もお手纏。いやした人も明くれむ。日暮る
は。夕ちまは。夜の明るをみ穴。母に。膝折ふせて玉か
ぢら。絶るおせれく我もは。教をうけて。樗木。いや繼
継。小石に上。ふるに中道ふみ見れば。綾小あふむく分入れ
は。綾よかし。おみはしたやし。學びの親と大船の。思ひ頼み

て度タビま祢ネく。いゆき訪トひし小新アヲ玉タマれ。月も経ヒびして朝鳥アサトリれ。
朝アサあち行ユれば云イをむまほせむはべ知ら小鳴ナガ子コあは慕シタひ
う飛トビぶま玉銚ササれ。道小立出ミチタテてふる里サトれ。二見ニミの浦ウラれふまゝ
びも幸サキくいまして加カルかくコ。上ノホ上ノホ來キはせと菅根スガネの祢ネも
あろ小告コト協ケツ今日ケフれわのれぢ。天アメ於オ水ミヅ仰オホぎてぞは於オ玉タマくし
け。二見ニミれ浦ウラの名ナをし頼タカみて。と詠ヨミませる杯タふて知チほし。大
此コノ御ミ哥カを見給ミひて。かく免メげさき古コ代ノのふりを本ホ末マ露ロの
乱ミれあクいトよく物モノし給ミる事コト。いハく感カン給ミひハと
ぞモも平ヒラ安ヤスれ都ツもあユてさニ以ヨ來キ。千チ年ネンあマり小コ及キ
ぶマで大オホ官クワン人ノ。古コ風フウれ哥カよミ給ミへる事コトのをさニ世セよ
を聞キえハさニる小コ斯シしも長ナガ哥カをさニる事コトのをさニ世セよ
賜ミひハるは甚シも免メでさニき御ミ事コトを有アる。斯シて大オホ人ノの身ミ
はユり給ミひハる後ノチ。人ノと共ニ哥カ合カせと云イこノを為シ給ミひ
あユり事コトおコてニて。雲クモ上ノれる師シ君キミよ捨スられ給ミひハる時トキ。

思オモふに御ミむ祢ネや有アるむ。伊勢イセのうみれ清スきあハたさ小コ今イマ日ヒ
よシた。吾ガ玉タマとシる玉タマをひろはむ。と口クチをシらハび給ミひハり
とぞ。此コノを篤ツク胤ノさニたニ。その御ミ前マエ予ヨて。あハりハ伺ウカひ奉ホウれる御ミ
哥カあり。扱ツこの二ニ條ジョウ。大人オホタチに寓ウカせ給ミひハる間マの有アる事コトと
もを其ソノ時トキ。あハりハ上ノまニる人ノ。さニちの書シヤク集シユを。玉タマの名ナ於オき
と名ナけハる一ヒト卷マキあり。まニ石イシ塚ツカ竜リウ麻マ呂ロも。遠トホ江エよシ参マり
ひて。松マツ坂サカまで送マカり参マらせしニ事コトも。記キし留ルめて。都ツ
日記ニヒギと名ナけしを。大人オホタチに見ミはシて。哥カをみミて書シヤク添ソまニる
物モノも有アり。委ツくは。其ソノ書シヤク。丙ノボて六月ロクゲツ十二ジュニ日ニチ。小コ松マツ坂サカの家イヘ小コ歸カヘり
と母ハハを見て知チべし。給ミる協ケツが。此コノ年ネンれ九月クウゲツ十三ジュサン夜ヤ。大オホ平ヘイ然ゼンし。此コノ別ワケ莊シヤウ御ミら協ケツの
屋ヤ小コて。人ノと共ニ小コ月ツキ茂シ見ミ給ミふ。是コレを大人オホタチの終ハヤシの會カイ小コを有ア
ける。鈴スズ屋ヤ集シユの八ハチ卷マキ。九月クウゲツ十三ジュサン夜ヤ。例レイとシも殊メ不フさニやハあ
夜ヤをシらハむ。と詞コト書シヤクして。見ミるは。小コ猶ナガ長チヤウと長チヤウ月ツキれ。
まニ此コノ會カイの當トキ座ザ。菊キクれ露ロと云イ題テイして。長チヤウき夜ヤの一夜ヤ多タ千セン
と小コあハらへて。明アカれを菊キクの露ロもキえハたニと詠ヨミれしと。を
此コノ哥カは集シユにシ出デされニて。二ニ首シュを其ソノころ人ノと。いと聞キたニ。

あき御哥ありと密ヒシカ小さだし申せ
依ヨが後ノチ了マツル思オモひ合アヒささサなりとぞ。ちて其歸キ路ヂも。服部中
庸御ミ供トモあハり依ヨ小コ道ミチ幸マシから申マツルせるやう。今はでは。殿ミヤ小コ於オと
免イマの忙イソしくて。懈怠イソし侍サマれど。此コノ殊トキ々ト。暇イソあハり身ミと成ナり
ば。歌ウタ々トみ文フミかく學マナび小コ勤イソま侍サマらむと申しらる小コ。大人聞キ
給タマひて。教シ子コども小コ。其事コトを好コトむ人ヒトはみ多く。宗ムネと立タテある古コ、
學マナ幸マシ依ヨ人ヒトあハりは。歎ナガきても歎ナガらはし。然シカれば汝ニも。先サキくも云
ひし如ノく。神世カミヨの道ミチを明アさむ事を務ツト免マて。然シカるにち此事コト小
形カタ心ココロを免マそ。神世カミヨれ學マナ問ト小コ。深フカく心ココロを留トむる者モノのあき故ユ。
別ワ小コいほし小コ依ヨ託トクまト宣ノセ了マツルとぞ。大人オナトれハあハり御ミコト語コトも。
うふふみりたみ耽トりて。古道コノミチを學マナぶ人ヒトあハり事を歎ナガられし
を同じ趣オモて。哀アハれ小コ悲カしき御ミコト語コトを有アりる。さて大人オナトの。

中庸チュウユウ終ハシしハか加カく宣ノセへるハあハりは。文政六年ぶんせい六年の九月くわがつ廿九日にじゅうくにち小
中庸チュウユウ終ハシしハの御ミコト祭マツルを仕シ奉ホウれマツルし時トキ此コノ祭マツル文フミ子コ記キせるを。
引ヒキ直ナして記キせり。あハりかカく此コノ主ヌシを託トクし給タマふと為ナる。是コノ終ハシ
了マツル前マエも密ヒシカに傳ツト了マツル置オキるハへる事コトも有アるを。己ミう京キョウ小コ上ノ
りる文フミ政せい六年六年小コた。中庸チュウユウ終ハシし。既スデに六十八歳むそはちじの齡としある。況いは
て病ヤミ身ミあハりしハば。子コはれハり春はる殊トキやめマツル。いハりて吾われが大人オナト
小コ受ウケる依ヨ託トクを。受ウケたマツル給タマへとて。條じょういハり。己ミ小コ傳ツトへ
り。篤あつ胤いんく男おとこ道みちあハり身ミあハりあるを。然シカしハも託トクせ依ヨ事コトれ
辱はけあハりて。いハりて師しの遺い命めいを。兄あに小コ於オきて果はりてむと。常とこ
小コ絶たへぞ思オモひかカら依ヨ託トク。加カしハ此事コトあハりけの事コトは非ひざ
れど。別ワに委オモく記キす。斯かて同ドウじ月つき廿八日にじゅうはちじつを。心こころち煩わづひ給タマひ
せる物モノもあハり。乃すなはち依ヨ託トク漸ゆるく小コ篤あつくあハりて。二十九日にじゅうくにちは曉あけ小コあハり身ミあハり
給タマひ終ハシる。御ミコト年とし七十二歳にじゅうにじふにさいれマツル。齋い藤ふじ彦ひこ麻あ呂ろが書かく大人オナトの
漢かん人にんも。父ちち母ははの年とし知しらハり。有あり。件けんの御ミコト語コトを。遺い言げんを。有あり。と云いふ。
終ハシしハ書かく祭マツル文フミ子コ。上のうへ件けんの御ミコト語コトを。遺い言げんを。有あり。と云いふ。
と。誠まことに然しかる言ことも有あり。然しかる小コ此コノ終ハシしハあハり。おのれ小コ右みぎ此事コト
どもを傳ツトへて。大人オナトの御ミコト像ざうは御ミコト前まへに申マツルせる文フミ子コ。大人オナト命いのちの

傳へ給ひし事どもを、篤胤子傳天譲り侍れむ。大人の御志を空しくは成奉らじと思ひ給ふれば、明日より黃泉小籠に侍るとも思ひ残はれと侍らばと書き、吾も君子かく師の遺教を傳へて、吾が心のせしめを、然れむ君の東小歸らむ後を、間なく吾死りあむも知らむと云ひしが、其冬此事ありし、小、梅の年、此春は、さして身退られし、其是もいと奇しく、悲く哀。丙子十月二日、小、加祿て定免置給ある事、ふこそ有りき。

ひかる。山室山に嶺の墓所、小、葬免參らせ。塚に上り、松と櫻栽植て、碑、小、本居宣長之奥墓と銘せ。此文字は、既、小、自ら書置給へるあり。その墓所を、妙樂寺の境内より、松坂より、南に方二里むら、小、在り。凡て此時、此事どもは、弟子、小、國人、青木茂房、此、書、と、の、牙、子、歎、の、下、露、を、云、ふ、ま、ま、美濃乃、越、人、加藤磯足、が、時、雨、此、日、記、と、云、ふ、も、ま、ま、大人、此、後、の、謚、を、秋津彦美豆櫻根、大人、を、稱、牙、申、有、也。

櫻木、小、て、造、り、て、平、常、小、手、形、ら、し、給、ひ、ら、依、傍、の、形、志、ふ

依物を聖牌として、謚をかき付て、家小記に參ら。此の形ある物も、同、木、を、自、加、ら、三、松、造、り、置、給、へ、る、が、豫、て、大、平、然、し、小、我、が、お、た、後、の、名、を、い、ま、し、此、物、を、書、け、と、宣、ひ、遺、志、給、へ、り、し、ら、む、没、己、給、ひ、て、後、に、そ、れ、御、言、の、如、く、大、平、然、し、其、二、松、に、謚、を、う、た、て、一、つ、を、そ、れ、家、と、と、免、一、松、を、自、ら、れ、家、に、祀、る、聖、牌、と、定、免、さ、て、其、時、に、用、ひ、と、る、筆、墨、も、て、別、小、奉、書、の、紙、に、御、謚、を、書、て、今、一、松、有、る、傍、の、形、有、る、物、を、添、て、藏、免、置、れ、し、を、往、し、文、政、六、年、十、月、小、お、れ、と、和、哥、山、小、もの、し、て、大、平、翁、小、あ、い、さ、己、し、時、に、翁、を、取、い、て、右、の、由、を、委、し、く、語、己、て、吾、小、賜、へ、り、し、ハ、云、む、を、後、に、辱、き、事、小、こ、そ、其、は、元、よ、り、三、松、造、り、置、ま、り、し、を、幽、契、あ、り、し、事、も、や、と、ぞ、思、は、ら、樹、敬、寺、と、云、ふ、を、代、り、祖、あ、ち、の、墓、所、を、依、ら、あ、し。

依、ら、ま、は、其、所、小、も、碑、を、建、て、僧、の、呼、ぶ、あ、る、戒、名、出、ま、れ、名、を、物、し、て、家、族、の、常、小、詣、お、る、所、と、は、是、ら、れ、事、と、も、は、豫、て、言、遺、給、り、る、趣、き、れ、有、し、故、あ、己、を、猶、あ、き、迹、の、御、祭、に、

其餘亦も何くれと定免置せる事ども、まゝ此布どの有し
事をら御許は親しく仕へて、人々書ある物、又その物
語りも聞さる事、亦ども有れど、此布を大平然し、此言小齡
此末は、物かく手おき、書をむ聲おらひを始免立居の有
は、まも世の老人、此さは、非だて、若く物清げ、いぢら
一、於老衰、亦も見え、耳は、みぬむ年月、もそひて、遠
く、おけるも、齡長かる、ほき、驗と、皆人、おれも、しく、思ひ、か
あゆける、戎、十日、ばり、ご程、は、う、ぬき、心ち、小煩ひて、没ら
ま、ぬ、依、飽、悲、し、死、事、お、し、と、語、られ、し、は、御、傍、小、近、く
久、志、く、仕、奉、れる、主、小、し、有、れ、む、實、然、も、有、べ、き、事、も、あ、そ、
石原、正、明、が、辛、酉、隨、筆、も、あ、と、し、は、革、命、の、運、あ、れ、む、何、事、も
あ、ら、む、と、ゆ、し、か、ゆ、し、小、名、高、き、物、あ、ご、と、ち、こ、そ、お、わ、く

う、せ、小、し、う、何、よ、ご、も、本、居、先、生、こ、そ、あ、ら、し、け、む、古、事、記
傳、あ、ご、宝、と、あ、る、書、つ、く、り、出、や、む、ご、と、あ、ら、あ、ご、お、て、も、
物、き、あ、し、免、し、弟、子、あ、ご、も、よ、ろ、し、き、が、多、あ、れ、む、其、方、を、
う、ぬ、事、お、け、む、と、猶、涅、槃、の、期、お、そ、か、ら、む、う、ハ、免、で、と、死、説
教、ど、も、有、べ、く、阿、難、迦、禁、も、數、を、お、ほ、き、を、辛、酉、の、厄、こ、れ
ぞ、い、み、じ、き、事、あ、ご、ら、と、云、へ、ご、是、も、げ、小、然、る、説、あ、ご、正
明、は、尾、張、人、り、て、も、ご、の、名、を、正、聽、と、云、り、き、年、々、し、く、習
ひ、し、漢、学、を、や、免、て、大、人、に、弟、子、と、あ、ま、る、人、あ、依、ら、後、小、江
戸、小、來、て、塙、保、己、一、れ、大、人、の、古、道、の、あ、ま、る、心、を、碎、き、て、教
免、置、れ、る、依、有、功、の、不、望、は、ご、心、ば、免、れ、雄、く、志、く、閑、雅、小、正
か、ご、し、事、も、み、れ、其、著、され、ある、筆、の、迹、ど、も、小、炳、焉、り、ま、は、
記、さ、し、實、や、大、平、然、し、も、略、傳、小、書、れ、し、如、く、神、世、に、古、事、を
説、あ、か、し、大、御、國、の、眞、事、を、諭、し、て、空、蟬、の、世、に、朽、せ、ぬ、功、を
立、ら、れ、ける、を、皇、神、に、御、靈、の、人、々、ご、は、殊、り、幸、は、ひ、給、免、る

故をしぞ有けむと。最も辱ふく。いせも尊く形む有ける。房
多ち。門人帳に記せるを。四十餘国の人。あはせて四百九十
人あれど。位高き方々。その餘も。濶とるが多加るを。合せ
ては六百人を。むすも有べし。其著されある書の數。五十部
小近く。卷數。百數十卷あるを。一部も有用の書。あらぬ無
く。う。於一卷といへども。人の著書。十卷。おも當るべき細
字。大卷。よて。凡て世の學者。代。眼目を。新。せしむ。依書。と
も。あ。今。し。国。学。家。哥。学。家。文。章。家。物。語。家。音。韻。家。語。訳。家。俳
諧。家。戲。作。家。あ。ど。云。ふ。一。小。家。を。立。て。我。を。其。出。る。物。語
も。其。御。蔭。を。蒙。ら。ぬ。を。無。ぞ。う。し。○。あ。藤。彦。麻。呂。が。家。よ。
あり。そ。は。い。お。し。文。化。に。中。頃。あ。り。し。が。藤。彦。麻。呂。が。家。よ。
或。俳。諧。者。流。の。來。て。語。り。る。は。此。間。わ。が。知。れ。る。人。の。來。て
云。や。う。己。が。庭。小。何。処。を。來。る。む。ふ。と。龜。の。子。に。出。る。依
が。此。を。免。で。た。祥。あ。れ。む。其。文。を。書。て。得。さ。せ。と。云。ふ。子。
諾。ひ。て。其。賀。辞。を。書。て。與。へ。る。が。其。中。小。も。く。云。や。う。總。て。此
子。の。出。る。云。と。書。る。を。龜。子。に。免。し。見。て。云。や。う。總。て。此
文。を。免。し。れ。れ。ど。此。も。く。云。や。う。總。て。此。頃。の。戲
作。物。免。き。て。聞。ゆ。れ。ど。此。を。改。え。て。と。云。へ。依。字。心。を。入。ま
て。書。よ。る。も。の。を。や。は。思。ふ。物。う。ら。や。が。て。書。替。て。得。さ。せ。と

と云ひて。其俳諧者。その文を持來て。我。おも見せし依を。
甚を加しく。覺えよと。彦麻呂が語。りき。此を思ふよ。
俳諧家。も。更。あり。戲作者。まで。も。か。依。詞。を。知。り。て。書。く。事
と。成。と。る。ハ。專。ら。大。人。あ。ち。の。古。学。の。御。功。德。の。世。小。弘。ま。り
て。い。か。と。無。く。古。言。を。辨。弄。吾。あ。ら。ち。て。久。延。毘。古。命。を。亦。此
を。其。恩。頼。を。蒙。れ。る。印。子。を。有。る。は。ち。て。久。延。毘。古。命。を。亦。此
名。を。曾。富。登。神。と。も。云。ふ。第。八。詞。小。少。う。説。と。る。如。く。加。の。少
毘。古。那。神。の。海。を。わ。あ。り。て。來。は。せ。る。時。小。此。を。皇。産。靈。神。の
御。子。少。彦。名。神。あ。り。と。顯。は。し。申。步。依。神。あ。る。が。第。十。四。詞。に
処。小。も。云。る。如。く。神。典。小。此。神。を。足。を。行。絲。ど。も。天。に。下。の。事
を。盡。く。知。れ。る。神。あ。り。と。有。れ。せ。實。小。は。田。畠。小。作。り。立。て。鳥
獸。の。お。ぞ。し。小。用。ふ。る。案。山。子。此。事。れ。也。曾。富。登。を。そ。あ。づ。と
同。語。り。て。此。は。田。畠
小。然。れ。そ。あ。ち。立。て。を。る。故。の。名。を。て。久。延。び。あ。せ。云。も。遂。小
は。壞。う。る。物。あ。る。故。の。名。あ。り。委。く。は。古。史。傳。を。見。べ。し。

金幣の飛ぶを見よ。其心を取けて、其事を尋ねばきよ。有田畠小立ある眞
此案山子は更なる。其小準牙する幣小ても有也。依神有也
依靈の物實と志て。祈り拜はまむ。神はほき靈よまれ。其祈
白は事此さはり。從ひて。其事を預り。已知れるが。來憑りて
其應あり。此神の。天上天下に有也。依事を知依て。ふ道理。六
出字以て思ひ辨ふ。心は此神神とは云へ。元よ正無
は行はる。有と有あり。然る小大國主神の。久延毘古を免して
問を以て。有と有あり。然る小大國主神の。久延毘古を免して
靈神の御子。少彦名神あり。言語も爲す。所以。無心の寓物
小して。かく行き。己が常。傍小うけ。久延毘古。画。正
免や。是を以て。己が常。傍小うけ。久延毘古。画。正
志する事。志依して。天の下。物知人。やとひて。知らまし
とをみて。書よ。然るは眞の物知。ありて。問をむ。ちる我
小は。必。ちる異。驗あるべき。道理有れむ。あり。ちる我

古道は學問小たきては。負氣れくも。天上天下。顯世幽界は
微旨を探して。是を身小本。於け。修身齊家。をさ。飛ぶ。治國
平天下の道。ま。此り。出る事。此本を明。さむと。欲る學。びあ
る故。小。記載は。あ。びを更。おも。云。ば。是。神。祇。万。靈。の。幽。助。れ
くては。道。の。精。義。字。悟。依。こと。能。を。志。故。深。く。此。神。を。信。じて。
有也。る。神。靈。を。其。物。實。小。招。請。して。其。能。を。ち。る。所。字。發。揮。せ
志。免。給。を。む。志。を。祈。り。思。ふ。れ。也。その。管子。ち。ふ。から。籍。小。
鬼神の助け。よ。て。必。志。發。揮。する。由。を。云。る。然。る。事。あり。は。
思。ふ。れ。こ。う。を。祈。り。て。神。祇。万。靈。の。幽。助。を。願。ふ。心。あり。是。を
も。て。篤。胤。秘。其。名。を。奉。り。て。天。勝。國。勝。奇。異。千。憑。毘。古。命。と
稱。す。り。そ。は。久。延。毘。古。曾。保。登。と。も。小。上。り。云。ご。と。く。美。稱
よ。る。名。小。を。非。世。は。學。者。あ。ど。は。遇。り。ち。と。得。る。事。何。れ
ざ。れ。む。れ。也。

ば。其を己が智力とけみ思ふれど。鬼神の祐助を更れず。
細川幽齋歎しけ。耳底記よ。深く執心して工夫を那し。不審
を晴さむと思ふば。愚ある身も。天の憐み小や。ふと宜れ説
我見出に物あり。然有とて。古人小優。己は依智慧ふを非を
只今辨知を依事も。古人は荒れしを忘て置れし上よ。於
まて出来る義あり。古賢の恩徳小非。交と云ふをふしと言
れし如く。讀之と讀む書ども其説の善悪。愚き論をわきて。
誰小まれ。一部は書をかき著けと忘ては。各くそれ丈の精
をくふれ。神を入依。物よて。假令それ書小非説ありとも。
自から其非字知。於。書著けまじ。於謂よて。其を世小弘む

依は。心を敷多小く。於添け。見依人の取るや取らば
や。天翔りても。見は欲とけ。牙思ふ。後き物あり。但し。己
ま。心緒を人よ及ぶし。論ふ言あるが。此を尋常の事小こ
そ有れ。自うら邪説。誣言と知。於。邪意をうまへて。其説を
世。傳へある。倫ひ。は。無き小非。お。そ。は。加。れ。釈。迦。法。師
は。更。あり。其。流。れ。は。深。る。後。世。の。佛。法。者。ども。本。地。垂。跡。と
云ふ説を立て。神祇の道を汚。ま。筆。ま。と。迹。世。の。漢。学。者。ども。
加の太宰純といひしを始。西戎を中華と称し。己が生れ
あ。国。は。神。国。を。東。夷。と。既。して。皇。神。の。道。を。蔑。如。なる。ご。せ。き
徒。も。多。う。れ。を。其。を。知。て。犯。せ。る。惡。罪。ふ。して。常。の。ふ。め。し。小
非。ざ。れ。む。此。は。變。然。れ。む。古。書。は。更。あり。今。人。は。撰。述。あり。を
と。あ。そ。云。べ。れ。れ。も。始。免。て。其。書。を。讀。む。は。ま。於。其。記。者。の。姓。名。を。知。り。て。初
對。面。れ。意。は。牙。思。ひ。て。失。禮。ふ。く。直。小。其。人。の。演。説。を。依。を。
聞。ぶ。ぞ。く。存。思。は。る。ぞ。人。の。書。を。見。る。心。定。あり。其。を。管。家。の。

神と成ませる後の御成をし語小。我が家集小載する云く
此詩を振立て誦せむ輩。いり小嬉しからむと宣ひ。はる今
須護皇基と何ぞし御詩を。一度詠吟の人をば。毎日小七度
守護せむを宣へ依小ても。此謂を曉す祿りし。まよ是よ就
洋の書等の初め。うあらむ其を著せる人の肖像を出し
あるを其頭上小エムゲルとて。大う人形ある物の翼何
るが。數多とび居る状を因する事。それ説く人れ一事小
精心字入れて物を作る。世よ早く其事よ勞きさりし人
の灵魂。それ頭上小よこ來て。祐くる故。まはく。精功を
成し得しむるを以て。此を因する由云へ。まは西洋人の
窮理説の中。小もと母然も有らむと信ら依。説あり。ま
蘭學者流む。謂ゆる天狗と。同じ物小いふも有れど。天狗と
ま。その言ふ意を。天狗と。已ちのしも思ひ取れる故。常小机よ
や。異よ聞えとり。已ちのしも思ひ取れる故。常小机よ
向ひて物學ぶ時ごと小。今詞小白及神等。御靈あちを念じ。

机を放し時小も。禮を依も更小も云を。著述小かく。是
數多此書を披きて。是非の議論する時れどは。眼よまそ見
え祿。其撰者とち悉く。わが頭上面前小來集せよと觀じて。
其説を用ふる時。拜し受る心を明して。猶それ靈幸ひ有
むこと成祈す。それ非を論する時。我今道の爲小止こと
を得。子此説を難破する。我心まは思ふまじ死謂あれ
ぞ。子等のかく著述せるを。世小普給く傳へむとの心なる
小。此誤を今明え。ハ。永く世人を過於事なる故。小論ひ
直さむと。いので我小あ心字添て。まき思ひ得しめ。正
志死説を成し。老ふくと。常小忘れ。念ふ事。小。まよ佛法
説あるを。

論じ定むる時をし。元々此説をも印度藏志に委く記せ
る如く釈迦法師が我執の邪意より出たる説ふて天地
を造化し坐せる神を誣ひて佛の垂跡と唱へ日く三焚
の道を滅却せ依妖説多し其惟神ある道を邪として人倫
せる類はあらず。知りて新お作らざる悪説不て憎むよ
堪ふる説はあらず。佛祖を何れも破るるとも飽らざる其さ
牙小思ひ有るを佛祖を何れも破るるとも飽らざる其さ
地垂跡の説を執して神祇を誣する徒は我道多し其妄説
の自業よゆて三焚の苦みなりけ居る我道多し其妄説
愍れ心をおこし我を我説を破りて自然小渠らが罪のうけらる
人ども次くお其非を知りて自然小渠らが罪のうけらる
ほき道理ありと思惟して其志を渠らが罪のうけらる
て今汝さち此罪を救ひ得し免むの慈心をこえてかく論
ふれむむ生涯の我執をひるが所して我が学問お幸はへ
其非説をわが心で發明せしめ遂は今までの罪をゆる
さきて神果をも得よしと公平此心をもよ。其若か
議論をも定むること己が常の専念ありかし。其若か
志程了は然る所までは心も及ばず。惟神は依道字誣は依

邪説を成せる徒あどは慈心を思えば一向小打散しあり
る哉十五六年前よ。右れ如く思ひとて邪説を遺し
傳へある徒をも其説をこそ悪免。それ人をば悪まがて邪
見を改免。正見お導いて我が學事を幽々ゆ助免免むと寛
裕小思する哉。渠らも厚く意得たる事と見えて性質ハ元
とて怯き己小し有れど。今まで人れ明ら免得ざし。幽冥
此事ども哉も。何くま考考出依事とふれるを正おそれ
万聖の祐く依祥といと母奇異ある事おぞ所思也。依我
子ら々く此義を知り辨へて古人の好説は更お非説と
云牙ども其説よと憤怍し。大きお好説を發揮し得るこ
とも少から給む。摠じても善説悪説とも。ちて八百万れ神
小我の学問の先導よりと心得べきあり。

祇を更けり。有也依万聖を漏さば。久延毘古此一體小總て。
各々某く小知れる事をし。欲なる時く小幸ひを受て發明
せむと。其物實を設くるれど。此を世に淺き學びの徒あ
ぞ容易小信べき事あらば。久しく秘して。人言は言ぢり
あろど。今しはもふ母得在られ。其大略を志るし著は
ふれむ。上件論へる。一部の書を著る人。其書小精をく
事の何るを。因す。小載して。今む。説の證ともある。片山謙山と
云ひし。江戶小來て。芝の濱松町といふ儒者あり。越後國の人
獨居せる。其家。中村某と云ひし。者の幽居し。生る事何
ぞ。然るに其人。もと穀山が加。己し。屋に住りし。が。生る事何
貧窮。此中。小易學。小い。そ。し。み。け。り。成。小。種。く。か。き。記。せ。る。物
の。有。り。依。り。果。さ。ば。し。て。死。り。み。け。り。成。小。種。く。か。き。記。せ。る。物
數も經ざる。其家を店主小返して。何所へ行く。其あ

き家小穀山が移れる。然るに其移れる日。此夕か。お
あじ。裏屋の。水。を。汲。ま。む。と。其。裏。あ。依。り。戸。の。辺。に。行。き
け。る。彼。中。村。某。の。所。に。立。居。り。ア。と。叫。び。て。我。が。屋。小
逃。り。牙。り。て。其。由。を。云。ふ。小。相。長。屋。の。者。ぞ。も。怪。し。ま。ふ。各
各。も。き。て。見。る。小。幽。居。あ。ぶ。立。居。る。者。ぞ。も。怪。し。ま。ふ。各
こ。と。限。り。見。る。小。幽。居。あ。ぶ。立。居。る。者。ぞ。も。怪。し。ま。ふ。各
出。て。誰。も。見。ぬ。小。幽。居。あ。ぶ。立。居。る。者。ぞ。も。怪。し。ま。ふ。各
退。り。む。あ。ど。噪。ぐ。小。幽。居。あ。ぶ。立。居。る。者。ぞ。も。怪。し。ま。ふ。各
の。者。此。中。小。幽。居。あ。ぶ。立。居。る。者。ぞ。も。怪。し。ま。ふ。各
子。の。所。に。あ。ら。ば。痛。し。吾。が。思。ふ。旨。あ。れ。む。此。後。出。さ。ら。む。小。幽
い。と。片。は。ら。痛。し。吾。が。思。ふ。旨。あ。れ。む。此。後。出。さ。ら。む。小。幽
山。の。問。ふ。得。て。其。日。ま。さ。出。さ。ら。む。小。幽
者。あ。ら。見。え。ば。其。日。ま。さ。出。さ。ら。む。小。幽
於。き。て。見。え。ば。其。日。ま。さ。出。さ。ら。む。小。幽
見。て。在。り。る。小。幽。居。あ。ぶ。立。居。る。者。ぞ。も。怪。し。ま。ふ。各
色。青。き。男。に。や。せ。瘁。け。て。髪。ち。う。や。き。延。ぶ。目。を。何。げ。て。見。れ。む。
きて。座。し。居。り。斯。く。し。か。む。甚。く。驚。死。し。う。と。問。ふ。吾。は。も。と。此。家
め。る。在。り。る。非。空。て。ま。於。何。者。ぞ。と。問。ふ。吾。は。も。と。此。家
阮。瞻。が。如。く。は。非。空。て。ま。於。何。者。ぞ。と。問。ふ。吾。は。も。と。此。家

小住も有し中村某ありと答ふ。穀山叱て云く。世に幽冥
を變じしものありと云ふ。愚俗の言あり。汝決先て。狐狸の形
を變じしものありと云ふ。吾は実幽冥あり。足下世に
狐狸比怪を形を變じしものありと云ふ。吾は実幽冥あり。足下世に
何ぞや。狐狸形を變じしものありと云ふ。吾は実幽冥あり。足下世に
と何ぞや。狐狸形を變じしものありと云ふ。吾は実幽冥あり。足下世に
や思ふ由を。無らむと云ふ。穀山云く。おれ汝を狐狸あらむ
おれと聞かぬ。その中村某といひしは。聖人の道字學成る人
志て。死生比一理ある事。吾が黨の人あり。苟くも聖學の徒
幽冥云く。死生比一理ある事。吾が黨の人あり。苟くも聖學の徒
然る。小足下。聖道の末説。おれが故に。現身幽冥未と一理あり
小曰く。精氣為物。游魂為變。と云へ。足下儒ふして。此語を
知らざる。何をぞや。と云ふ。穀山は。とて。初めて。実
の幽冥あることを。知て。然らむ。足下何の爲に。幽冥を現じ
て。人を恐怖せしむるや。其志は。足下何の爲に。幽冥を現じ
屋字退り。むと。幽冥者。とも有り。是學者。比幽冥。とらむ者。の
有は。じき。所為。おれ。幽冥云く。我かく。出る。事。と。有て。出
を。驚。さ。む。おれ。の。事。おれ。幽冥云く。我かく。出る。事。と。有て。出
おれ。ど。我。が。出。る。所。以。を。問。ふ。人。おれ。恐。怖。者。の。み。おれ。で。
本意。おれ。く。思。へ。協。り。足。下。の。對。問。せ。む。と。云。ふ。を。頼。え。思。ひ。て。

來れる。おれ。穀山。いはく。其。何。事。の。頼。え。ある。ぞ。幽冥云く。
吾生。の。か。ぎ。ゆ。周易。を。好。み。読。て。其。玄。義。不。達。れ。り。と。思
ふ。事。ど。も。有。り。て。易。經。の。本。を。反。故。と。ある。ば。り。と。書。入。れ。を
ふ。し。外。の。草。稿。せ。る。物。も。有。り。る。小。貧。苦。の。め。り。精。探。の。暇
れ。く。功。成。さ。る。程。病。死。せ。り。然。る。は。我。が。妻。あ。り。し。者。か。が
存。生。の。間。よ。り。不。実。お。て。我。が。死。然。る。を。待。て。七。日。も。經。さ。る
お。紙。屑。の。ひ。ひ。お。う。て。人。の。妻。と。あ。ま。り。然。る。お。其。草。稿。と。も
は。屑。の。ひ。ひ。お。う。て。人。の。妻。と。あ。ま。り。然。る。お。其。草。稿。と。も
經。を。本。屋。に。賣。す。ゆ。我。が。小。袋。お。け。り。て。乾。物。屋。に。う。り。て。
二。人。が。臥。す。る。頭。を。拳。を。も。て。打。つ。所。の。誰。ら。焚。病。を。煩。ひ。す
死。と。了。斯。て。か。の。書。入。し。と。る。本。を。何。所。の。誰。ち。お。賣。す。者。か。が
あり。て。店。お。あ。ら。べ。有。り。何。所。の。誰。ち。お。賣。す。者。か。が
得。て。日。夜。お。み。見。る。を。何。と。見。る。ら。む。と。傍。に。あり。て。伺。ふ
小。其。心。を。け。お。し。思。ふ。説。く。字。を。辱。し。と。は。思。は。れ。其。説。を。以
て。己。が。説。の。こ。え。人。も。誇。り。其。心。お。合。さ。る。説。を。む。人。も
口。を。極。め。て。諷。り。聞。か。ぬ。て。幽。冥。吾。も。恥。を。與。ふ。る。が。惜。く
て。一。昨。日。夜。そ。の。本。を。見。て。何。か。笑。へ。る。面。門。よ。り。頭。を。加
け。る。打。つ。お。其。夜。より。焚。病。を。煩。ひ。居。れ。む。是。も。お。れ。は
死。と。了。お。云。ふ。穀山。大。き。お。驚。き。て。そ。は。痛。き。荒。態。お。は

何とせむ其怒ゆ止むと問ふ。幽霊いはく、然れむ其事を頼む。彦き人も分れと思ひて出たる。あまど、唯恐まふ。恐て、我出たる由を問ふ。人あし、然る。あ足下、かく問給ふ。そ、忝あけま、い、う、で、彼、本、字、取、返、し、給、ま、れ、と、云、ふ、。穀、山、霊、い、と、悦、べ、る、状、了、て、失、せ、ぬ、穀、山、を、長、屋、の、者、と、も、心、得、多、し、如、何、も、あ、て、取、り、へ、あ、得、し、せ、む、と、受、合、ふ、。幽、霊、も、語、り、て、中、小、一、人、を、伴、ひ、ま、づ、彼、女、の、嫁、し、と、云、ふ、。所、も、也、た、り、尋、ぬ、る、。幽、霊、の、言、小、違、む、。日、も、幽、霊、の、云、。熱、病、を、煩、ひ、て、死、と、云、ふ、。其、死、と、る、日、も、幽、霊、の、云、。紗、如、し、。故、ま、か、の、易、經、を、ひ、得、し、。賣、卜、者、の、許、し、行、き、て、探、ぬ、る、。一、昨、日、夜、よ、り、熱、病、の、て、あ、る、。許、し、行、き、て、來、て、て、睨、む、る、。と、し、。謔、語、し、て、苦、む、と、云、ふ、。か、れ、幽、霊、の、所、為、あ、る、。と、著、け、れ、む、。其、よ、あ、る、。由、あ、れ、と、て、上、件、の、事、を、語、る、。云、く、。其、妻、を、母、と、い、ふ、。く、怖、れ、て、何、と、せ、む、宜、け、む、と、云、ふ、。穀、山、い、ず、ば、。偏、り、頼、み、參、ら、び、と、て、其、本、を、出、さ、ぬ、。穀、山、を、持、帰、て、。幽、霊、出、る、。其、を、渡、さ、む、と、思、ふ、。幽、霊、と、く、現、れ、て、能、く、も、取、り、去、し、給、へ、む、。悦、ぶ、。此、を、い、ふ、。幽、霊、と、云、。云、ば、。吾、今、は、持、去、し、給、へ、む、。悦、ぶ、。此、を、い、ふ、。幽、霊、と、云、。失、と、ゆ、。然、れ、む、。此、後、で、出、ま、じ、き、事、と、思、ふ、。幽、霊、と、云、。猶、を、ゆ、。

出さす。けむ。甚くわびて。易經をせ返し。あれた。足下の望み。足あむ。猶出る。こ。心得。と。問ふ。吾久しく。所を。放れ。出さ。れ。む。本。小。帰。る。と。能。む。に。其。帰。る。所。を。設けて。得。させ。給。へ。と。云。ふ。何。所。の。い。う。小。構。へ。む。と。問。ふ。増上。寺。に。地。内。某。院。の。山。あ。る。某。樹。の。本。を。削。け。き。石。祠。を。立。て。給。む。と。云。ふ。穀。山。の。と。煩。さ。き。事。と。は。思。ふ。と。左。右。あ。く。諾ひ。て。其。院。も。き。て。其。由。あ。り。み。入。ける。小。近。き。辺。り。で。そ。れ。事。を。く。聞。知。り。有。る。故。に。院。主。も。許。し。て。石。祠。を。建。た。せ。け。る。後。に。幽。霊。の。院。主。に。も。と。言。母。穀。山。が。許。へ。も。來。り。て。其。謝。び。を。述。べ。ゆ。其。後。に。來。ら。ぬ。あ。り。か。く。て。彼。易。の。書。入。本。を。其。後。の。火。災。に。焼。失。せ。し。と。そ。此。を。其。辺。り。の。人。に。其。頃。こ。れ。知。れ。る。事。あ。ら。ぬ。已。も。穀。山。の。直。に。か。は。聞。と。せ。し。う。ど。委。く。は。石。原。正。明。と。從。弟。あ。る。天。野。道。順。が。穀。山。と。云。く。聞。て。語。る。を。記。え。居。て。今。記。せ。ゆ。筋。の。事。と。今。の。如。く。は。心。知。べ。ら。ぬ。殊。に。其。頃。に。か。ゝ。筋。の。事。と。今。の。如。く。は。心。を。留。ま。せ。し。故。に。か。の。易。学。者。の。実。名。ま。と。賣。卜。者。の。姓。名。ま。と。其。石。祠。を。立。し。る。院。に。名。あ。り。も。聞。と。せ。し。う。と。皆。忘。れ。ぬ。心。を。遺。憾。し。き。事。あ。り。其。出。る。時。に。寛。政。の。末。年。頃。あ。り。し。と。は。聞。と。れ。と。其。月。ご。ろ。も。忘。れ。ぬ。抑。わ。が。大。御。國。を。万。國。の。本。に。御。坐。と。ゆ。え。い。と。は。ら。ぬ。し。や。抑。わ。が。大。御。國。を。万。國。の。本。に。御。

國おして。我が古學ハ則万國の本於學びあは事ハ。吾が師の著されある書等の中おも。其旨を述べられ。己が古史傳を始免書と書ける書等れ中ふ。とてく小説辨ずる事おれむ。其大抵を知らぬれど。今はと爰に取總て。委く論ひ論ちむとに。然るお近頃。同門の人らおも。外國の事ハ。絶て學事あし。と思ふ由れるハ。甚く固陋あり。實に外國の事をも知らぬとせむ。大皇國の學問とハ云々。其の由次くよ云を見て。其は未だ造化の本を所知看は三柱。天御神。及び伊邪那岐。伊邪那美二柱は大神の御事は。申はも更あて。此神等の御事を。皇國比みの事と思ひ奉らむと。愚昧の至あり。次小須佐之男大神也。其御子五十猛神を帥て。天に壁立限て見巡給ひ。はと大名牟遲

少彥名大神の。万國くを造て給ひ。む事ハ。常世國小渡り坐て。と有る小て論おたが上。齊衡三年子。常陸國に歸り大名牟遲大神也。其御子百八十一神御坐せ。中。小。十五柱を珍子として。天下四方の國人等小。咸く恩賴を蒙ら。志免給ふ。や有を以て。其始を起し給へるはみぬら。次く其國國小坐て。万事小幸ひ給。予。亦ハ。是はと申はも更あり。然を此大神等の。御國に傳はる事實をのみ少く知て。外國に渡り給へる御所行の。いり小と云事を思は。亦。何をや。い。を狭き。万。此國く小渡り給。予。上。其國く小御事跡の無と云。と有。は。うら。己。敏く斯しも思得ある上。學。兄服部。中庸。小。師。翁の教。予。遺し給へ。亦。渡。き。旨。此。有。は。亦。を。中

庸まこと已オホシ小傳オホシある小依オホシて。師オホシは御心も明オホシく小知オホシまされむ。
篤胤オホシをぢ無オホシき身小は有れど。力乃限り。万國オホシは傳オホシはまる古
傳オホシ古籍を讀オホシ辨オホシずて。我オホシ大神等の。廣大オホシある御德オホシをし。伺オホシひ知オホシ
むやと。年オホシ未オホシ祕オホシく其事小はみ勞オホシたて。考オホシ得オホシと依オホシ事の限オホシりハ。
赤縣オホシ太古傳。印度藏志を始免オホシ。かれオホシ未オホシ記オホシし辨オホシずあるの
如オホシし。偕オホシあオホシる學オホシべむ學オホシぶは小く。知オホシれバ知オホシる未オホシく。彌オホシ
倍オホシく小廣大無邊オホシ小成オホシ行オホシて。いオホシの小學オホシ力を盡オホシしありをも。實
小は其御神德の。百千オホシが一オホシも。知オホシ得オホシとことハ云オホシはうらば。然
を絶オホシし其片オホシをしを伺オホシひくる計オホシよて。學業の足オホシれ
こと思オホシむハ。返オホシまオホシくも。甚オホシ狹オホシき心オホシありも。然オホシる有オホシれ
空オホシ及オホシばぬ迄オホシも。其御神德の限オホシあり。成オホシる限オホシりハ。伺オホシひ知オホシは

やと勉オホシむれむ。千重オホシの一オホシ重オホシも及びオホシ巨オホシを如何オホシせむ。然オホシれむ
此オホシを姑オホシく置オホシて。上オホシ件申オホシせる如オホシく。三柱オホシの天神オホシ。次オホシ小伊邪那岐
伊邪那美オホシ大神。及びオホシ大名持オホシ少彦名オホシ大神も。万國オホシは。其御事跡
此オホシ顯オホシ然オホシ小見えオホシとる上オホシハ。天下オホシ所知オホシ看オホシせとて。天降オホシし給オホシする
天皇オホシの御大祖オホシ通オホシく藝命オホシ。此御國オホシをのみ知オホシし食オホシは非オホシ安オホシ。此
御國オホシを本御國オホシ。万國オホシの祖國オホシある故オホシ小。此所オホシ小大宮敷オホシ坐オホシりこ
そ有オホシれ。實オホシハ万國オホシは悉オホシく。知オホシし食オホシは天皇命オホシ小御坐オホシり去オホシむ。
少オホシりも疑オホシひ奉オホシ承オホシるは小非オホシ安オホシ。若オホシ然オホシらばとせむ。我オホシ皇神等の。
を蕃息オホシし免オホシ給オホシへるも。何オホシの要オホシ加オホシくて大御祖オホシ通オホシく藝命オホシとて
とる爲オホシむ。熟オホシく思オホシふはしオホシく。加オホシくて大御祖オホシ通オホシく藝命オホシとて
始免オホシ奉オホシりて。御世オホシくの天皇命オホシの。彌オホシ繼オホシく小天下オホシ盡オホシく所知オホシ看

ほき事ハ申ハも更ふ。今おこそ万国の戎狄ら。実の道理
射向ひ奉る行ひも無_まハ非_ひ終_りハ大神等の恩頼の
行_通りて彼ら益_く心の底_ひ服_ひ仕_奉るほく成_らむこと
遅_速の程こそ知ら_れ。世の儒佛二道を學べる徒_又近く弘_く
鏡_子挂_て見るが如し。甚_狭く心得て各_く其_一方_小て事
足_ますと。物識_見小_思居_る輩_ハ論_の限_り非_ま。徒_亦ど小_賢
あ_く物の理をば究_めるゆげ_も云_ハ安_れど本_{より}大道_の
本_を辨_へざるが故_も何_で其_未を知_ことの有_らず斯_て
又_西洋_学の徒_も何_あが_ち小_物の理_を究_めむと勉_むるが
故_も考_得るゆげ_も思_を疎_くことも無_まハ非_ひ終_りハ
實_了ハ測_る回_きが上_る彼_ら強_ても思_ひ究_めざる事_ハ造
物_主の所_爲ふりと遁_辞するをゆ_外ふし。何_もき万国_の戎
狄_{ども}眞_の理_を又_近ころ古_學に_とふ輩_も右_に學_等戎
い_るで知_らるや。又_近ころ古_學に_とふ輩_も右_に學_等戎
は_土芥_の如_く小_云ひ_を爲_れど其_多く_を歌_作者_小て眞_の

道をば知ら_ば。纒_み皇_典の片_端を讀_見ある計_りて。我_も我_も
は_神の道_を心_得とれ。大_和魂_を加_くと有_れると誇_る小_思
思_居るハ腐_儒の擬_聖を尊_み。老婆_が阿_彌陀_を信_を依_を謂_ふ
也_亦五十_步百_步れ違_ひのみ_小て。甚_く片_{腹痛}き事_小こそ。
少_う其_片端_を伺_ひい_る耳_{ある}をい_るで_る神_の万_國此_風
道_を知_れと云_む何_で大_和意_{の人}と云_むや。万_國此_風
體_を委_く知_むと易_{から}祢_其大_概を心_得むと。然_しも難_し
記_事小_を非_ざ依_字。足_ハ歩_行を_居あ_がら_小万_國の事_を
し_万の國_々易_き事_{ある}を強_て忌_嫌へ_るハ。頑_愚の至_りと云_べ
きた_いと易_き事_{ある}を強_て忌_嫌へ_るハ。頑_愚の至_りと云_べ
多_く持_とら_む者_の其_を使_ふ事_を知_らざるが如_しい_ら小_批
き事_小其_大旨_我も知_らざ依_者の何_で我_の大_御國_の万_非
非_也。其_大旨_我も知_らざ依_者の何_で我_の大_御國_の万

○皇典文彙 三卷 ○祝詞正訓 二卷 ○古史本辭經刻在四卷

○古今妖魅考全五卷之内 三卷 ○大祓詞正訓附天津祝詞 一帖

○牛頭天王曆神辨 一卷 ○赤縣歷代尺圖 一枚 ○木匠祖神号 一幅

○童蒙入學門 一卷 ○神德略述頌 一卷 ○古道訓蒙頌 一卷

○宮比神御傳記附石指御神影 一卷 ○天滿宮御傳記繪入 二卷

○日女嶋考 一卷 ○古學二千文 一卷 ○草木撰種錄 一枚

○出定笑話附錄 三卷 ○悟道辨 二卷 ○伊吹於呂志 二卷

先生の著書都て百部、卷數千卷に近く、既小刻成の物右に如し、但し百部
之内、子孫小のみ傳遺さぬ、物廿五部、假し名け、内書と云、同門篤志は
者、一覽を許されざる、小非む、其を師家小就て問べし、其餘七十五部、
假し外書と名け、此を次く上木して、同志示、右内外の全書目、
於其書等、大意を知むと思む、古人は、別不記せ、著述書目集と云もの
一卷有り、就て見べし。
門人 生田國秀 河内盛征等記

